

【別紙】

2. 定量的な目標・効果
9. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	1		
運行事業者名	堀川バス(株)		
系統名	羽矢線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	羽犬塚	ゆめタウン前・福島	黒木

取組内容

① 生産性向上に資する取組 (1)「八女市路線バス通学定期券補助事業」の学校・家庭への利用呼びかけを行い、学生の通学利用の需要を取り込む。 (2)ICカード導入による利便性向上の周知のチラシ配布を行い、バス利用の呼びかけを行うことにより、利用者の増加を図る。又、小中高生の「100円・200円運賃」の周知を行い、休日の利用者の増加を図る。 (3)1日乗車券や運転免許返納による割引証の発行により利用を促進し、路線収益の増加を図る。 (4)イベント時に筑後船小屋駅等にて利用促進キャンペーンのチラシやグッズの配布や公共交通体験会を実施し、利用促進を図る。 ② 実施主体 (1)(2)(3)(4)堀川バス、八女市、筑後市 ③ 定量的な効果目標 【収支率】令和5年度実績35.6%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年度実績80,477人以上を維持する。 ④ 実施に向けたスケジュール (1)沿線学校に対する、通学定期購入の呼びかけ(令和7年9月まで随時) (2)沿線住民に対するICカードの導入の周知及びバス利用の呼びかけ(令和7年9月まで随時) (3)沿線住民に対する1日乗車券や運転免許割引周知によるバス利用の呼びかけ(令和7年9月まで随時) (4)イベント時での参加者に対するバス利用の呼びかけ(令和7年9月頃) ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 八女市、筑後市を結ぶ本路線はJR羽犬塚駅に接続する公共交通手段として沿線住民にとって通勤・通学等の生活路線として利用されている重要な路線である。また、路線の一部には沿線フィーダー系統が接続しており、周辺には他に鉄道駅等もないことから、今後とも幹線系統として維持する必要がある。 【参考】R6年度計画の取組状況 (1)「通学定期券補助事業」の学校・家庭への利用呼びかけを行う。 取組実施状況:A 実施済 【取組の結果】学校訪問や沿線住民にチラシ配布やバス利用の呼びかけを行った。 【取組内容における課題】 引き続き感染予防対策は実施し、安心して利用いただけるように更なる周知を行い継続的な呼びかけを実施する必要がある。 (2)ICカードの導入、小中高生100円200円バスの周知やバス利用の呼びかけを行う。 の取組実施状況:A 実施済 【取組の結果】沿線住民にチラシ配布やバス利用の呼びかけを行った。 【取組内容における課題】 引き続き感染予防対策は実施し、安心して利用いただけるように更なる周知を行い継続的な呼びかけを実施する必要がある。 (3)1日乗車券や運転免許返納による割引証の発行による利用促進を図る。 取組実施状況:A 実施済 【取組の結果】沿線住民にチラシ配布やバス利用の呼びかけを行った。 【取組内容における課題】引き続き感染予防対策は実施し、安心して利用いただけるように更なる周知を行い継続的な呼びかけを実施する必要がある。 (4)イベントに筑後船小屋駅等にて利用促進キャンペーンや公共交通体験会を実施し、利用促進を図る。 取組実施状況:A 実施済 【取組の結果】沿線住民にチラシ配布やバス利用の呼びかけを行い、公共交通体験会を実施した。 【取組内容における課題】引き続き感染予防対策は実施し、安心して利用いただけるように更なる周知を行い継続的な呼びかけを実施する必要がある。

【別紙】

2. 定量的な目標・効果
9. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	2		
運行事業者名	堀川バス(株)		
系統名	羽矢線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	羽犬塚	蒲原・黒木	柴庵

取組内容			
① 生産性向上に資する取組			
(1)「八女市路線バス通学定期券補助事業」の学校・家庭への利用呼びかけを行い、学生の通学利用の需要を取り込む。			
(2)ICカード導入による利便性向上の周知のチラシ配布を行い、バス利用の呼びかけを行うことにより、利用者の増加を図る。又、小中高生の「100円・200円運賃」の周知を行い、休日の利用者の増加を図る。			
(3)1日乗車券や運転免許返納による割引証の発行により利用を促進し、路線収益の増加を図る。			
(4)イベント時に筑後船小屋駅等にて利用促進キャンペーンのチラシやグッズの配布や公共交通体験会を実施し、利用促進を図る。			
② 実施主体			
(1)(2)(3)(4)堀川バス、八女市、筑後市			
③ 定量的な効果目標			
【収支率】令和5年度実績35.0%から収支改善1.0%以上を目標とする。			
【輸送人員】令和5年度実績73,765人以上を維持する。			
④ 実施に向けたスケジュール			
(1)沿線学校に対する、通学定期購入の呼びかけ(令和7年9月まで随時)			
(2)沿線住民に対するICカードの導入の周知及びバス利用の呼びかけ(令和7年9月まで随時)			
(3)沿線住民に対する1日乗車券や運転免許割引周知によるバス利用の呼びかけ(令和7年9月まで随時)			
(4)イベント時での参加者に対するバス利用の呼びかけ(令和7年9月頃)			
⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由			
八女市、筑後市を結ぶ本路線はJR羽犬塚駅に接続する公共交通手段として沿線住民にとって通勤・通学等の生活路線として利用されている重要な路線である。また、路線の一部には沿線フィーダー系統が接続しており、周辺には他に鉄道駅等もないことから、今後とも幹線系統として維持する必要がある。			
【参考】R6年度計画の取組状況			
(1)「通学定期券補助事業」の学校・家庭への利用呼びかけを行う。			
取組実施状況:A 実施済			
【取組の結果】学校訪問や沿線住民にチラシ配布やバス利用の呼びかけを行った。			
【取組内容における課題】			
引き続き感染予防対策は実施し、安心して利用いただけるように更なる周知を行い継続的な呼びかけを実施する必要がある。			
(2)ICカードの導入、小中高生100円200円バスの周知やバス利用の呼びかけを行う。			
の取組実施状況:A 実施済			
【取組の結果】沿線住民にチラシ配布やバス利用の呼びかけを行った。			
【取組内容における課題】			
引き続き感染予防対策は実施し、安心して利用いただけるように更なる周知を行い継続的な呼びかけを実施する必要がある。			
(3)1日乗車券や運転免許返納による割引証の発行による利用促進を図る。			
取組実施状況:A 実施済			
【取組の結果】沿線住民にチラシ配布やバス利用の呼びかけを行った。			
【取組内容における課題】引き続き感染予防対策は実施し、安心して利用いただけるように更なる周知を行い継続的な呼びかけを実施する必要がある。			
(4)イベントに筑後船小屋駅等にて利用促進キャンペーンや公共交通体験会を実施し、利用促進を図る。			
取組実施状況:A 実施済			
【取組の結果】沿線住民にチラシ配布やバス利用の呼びかけを行い、公共交通体験会を実施した。			
【取組内容における課題】引き続き感染予防対策は実施し、安心して利用いただけるように更なる周知を行い継続的な呼びかけを実施する必要がある。			

【別紙】

2. 定量的な目標・効果
9. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	3		
運行事業者名	堀川バス(株)		
系統名	久留米線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	福島	鑑水・西鉄久留米	久留米駅

取組内容			
① 生産性向上に資する取組 (1)ICカード導入による利便性向上の周知のチラシ配布を行い、バス利用の呼びかけを行うことにより、利用者の増加を図る。 (2)公共交通マップを作成し、利用者へ配布し利用促進を図る。 (3)1日乗車券や運転免許返納による割引証の発行により利用を促進し、路線収益の増加を図る。 ② 実施主体 (1)(3)堀川バス、八女市、広川町 (2)堀川バス、久留米市 ③ 定量的な効果目標 【収支率】令和5年度実績55.8%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年度実績52,994人以上を維持する。 ④ 実施に向けたスケジュール (1)沿線住民や利用者に対する、ICカード導入による利便性向上の周知、バス利用の呼びかけ(令和7年9月まで随時) (2)公共交通マップを作成し、バス利用の呼びかけ(令和7年9月まで随時) (3)沿線住民に対する1日乗車券や運転免許割引周知によるバス利用の呼びかけ(令和7年9月まで随時) ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 久留米市、八女市、広川町の2市1町を結ぶ本路線はJR久留米駅、西鉄久留米駅に接続する公共交通手段として沿線住民にとって通勤・通学等の生活路線として利用されている重要な路線である。また、当該路線の一部には沿線フィーダー系統が接続しており、八女市、広川町には鉄道駅等もないことから、今後とも幹線系統として維持する必要がある。			
【参考】R6年度計画の取組状況 (1)ICカード導入による利便性向上の周知のチラシ配布 取組実施状況:A 実施済 【取組の結果】沿線住民にチラシ配布やバス利用の呼びかけを行った。 【取組内容における課題】 引き続き感染予防対策は実施し、安心して利用いただけるように更なる周知を行い継続的な呼びかけを実施する必要がある。 (2)1日乗車券や運転免許返納による割引証の発行による利用促進を図る。 取組実施状況:A 実施済 【取組の結果】沿線住民にチラシ配布やバス利用の呼びかけを行った。 【取組内容における課題】引き続き感染予防対策は実施し、安心して利用いただけるように更なる周知を行い継続的な呼びかけを実施する必要がある。			

【別紙】

2. 定量的な目標・効果
9. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	4		
運行事業者名	堀川バス(株)		
系統名	星野線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	福島	田の原	十箆車庫前

取組内容			
① 生産性向上に資する取組 (1)「八女市路線バス通学定期券補助事業」の学校・家庭への利用呼びかけを行い、学生の通学利用の需要を取り込む。 (2)ICカード導入による利便性向上の周知のチラシ配布を行い、バス利用の呼びかけを行うことにより、利用者の増加を図る。又、小中高生の「100円・200円運賃」の周知を行い、休日の利用者の増加を図る。 (3)1日乗車券や運転免許返納による割引証の発行により利用を促進し、路線収益の増加を図る。 ② 実施主体 (1)(2)(3)堀川バス、八女市 ③ 定量的な効果目標 【収支率】令和5年度実績32.8%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年度実績53,986人以上を維持する。 ④ 実施に向けたスケジュール (1)沿線学校に対する、通学定期購入の呼びかけ(令和7年9月まで随時) (2)沿線住民に対するICカードの導入の周知及びバス利用の呼びかけ(令和7年9月まで随時) (3)沿線住民に対する1日乗車券や運転免許割引周知によるバス利用の呼びかけ(令和7年9月まで随時) ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 旧八女市、旧上陽町、旧星野村を結ぶ本路線は、沿線住民にとって通勤・通学等の生活路線として利用されている重要な路線である。また、路線の一部には沿線フィーダー系統が接続しており、周辺には他に鉄道駅等もないことから、今後とも幹線系統として維持する必要がある。			
【参考】R6年度計画の取組状況 (1)「通学定期券補助事業」の学校・家庭への利用呼びかけを行う。 取組実施状況:A 実施済 【取組の結果】学校訪問や沿線住民にチラシ配布やバス利用の呼びかけを行った。 【取組内容における課題】 引き続き感染予防対策は実施し、安心して利用いただけるように更なる周知を行い継続的な呼びかけを実施する必要がある。 (2)ICカードの導入、小中高生100円200円バスの周知やバス利用の呼びかけを行う。 の取組実施状況:A 実施済 【取組の結果】沿線住民にチラシ配布やバス利用の呼びかけを行った。 【取組内容における課題】 引き続き感染予防対策は実施し、安心して利用いただけるように更なる周知を行い継続的な呼びかけを実施する必要がある。 (3)1日乗車券や運転免許返納による割引証の発行による利用促進を図る。 取組実施状況:A 実施済 【取組の結果】沿線住民にチラシ配布やバス利用の呼びかけを行った。 【取組内容における課題】引き続き感染予防対策は実施し、安心して利用いただけるように更なる周知を行い継続的な呼びかけを実施する必要がある。			

【別紙】

2. 定量的な目標・効果
9. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	5		
運行事業者名	堀川バス(株)		
系統名	瀬高柳川線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	瀬高駅前	西鉄柳川	亀の井ホテル柳川

取組内容
① 生産性向上に資する取組 (1)柳川市及びみやま市コミュニティバスに接続する幹線バスの周知を行い、コミュニティバス利用者の幹線バスへの乗継需要を取り込み、利用者の増を図る。 (2)チラシ配布などで、ICカード導入による利便性向上の周知、運転免許返納割引証の発行等の取組について紹介し、バス利用の呼びかけを行い、利用者の増を図る。 (3)バスの乗り方教室や無料バスの運行を実施し、路線バスを広く周知し、利用の呼びかけを行い、利用者の増を図る。 ② 実施主体 (1)(2)(3)堀川バス、柳川市、みやま市 ③ 定量的な効果目標 【収支率】令和5年度実績44.7%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年度実績115,592人以上を維持する。 ④ 実施に向けたスケジュール (1)コミュニティバス利用者への乗継利用の呼びかけ(令和7年9月まで随時) (2)沿線住民や学校へのバス利用の呼びかけ(令和7年9月まで随時) (3)バスの乗り方教室、無料バスの運行(令和7年9月までに実施) ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 柳川市、みやま市を結ぶ本路線は、JR瀬高駅、西鉄柳川駅に接続する公共交通手段として沿線住民にとって通勤・通学等の生活路線として利用されている重要な路線である。また当該路線の一部には沿線フィーダー系統が接続しており、周辺には鉄道駅等もないことから、今後とも幹線系統として維持する必要がある。 【参考】R6年度計画の取組状況 (1)コミュニティバス利用者への乗継利用の呼びかけ。 取組実施状況:A 実施済 【取組の結果】沿線住民にチラシ配布やバス利用の呼びかけを行った。 【取組内容における課題】引き続き感染予防対策は実施し、安心して利用いただけるように更なる周知を行い、継続的な呼びかけを実施する必要がある。 (2)(3)沿線学校訪問や沿線住民に対し、バス利用の呼びかけを行う。 取組実施状況:A 実施済 【取組の結果】学校を訪問し、又住民に対してバス利用の呼びかけを行った。 【取組内容における課題】引き続き感染予防対策は実施し、安心して利用いただけるように更なる周知を行い、継続的な呼びかけを実施する必要がある。 (4)バスの乗り方教室や無料バスの運行利用促進を行う。 取組実施状況:A実施済 【取組の結果】地元小学生を対象に乗り方教室を実施、又柳川市、みやま市と連携し、無料バス運行を実施。 【取組内容における課題】引き続き感染予防対策は実施し、安心して利用いただけるように更なる周知を行い、継続的な呼びかけを実施する必要がある。 (5)バスの日にあわせて利用促進策の実施。 取組実施状況:D検討中 【取組の結果】柳川市、みやま市と連携し、実施に向け検討中。 【取組内容における課題】引き続き感染予防対策は実施し、安心して利用いただけるように更なる周知を行い、継続的な呼びかけを実施する必要がある。

【別紙】

2. 定量的な目標・効果			
9. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項			

計画記載 系統番号	6		
運行事業者名	昭和自動車(株)		
系統名	芥屋線		
運行区間	(起点) 前原	(経由地) 前原駅前・加布里	(終点) 芥屋

取組内容
① 生産性向上に資する取組 (1) バス停のベンチを新規設置又は改修によるバス待ち環境の整備、バス停への路線図の掲示、系統番号表示の実施により、バスを利用しやすくする。 (2) 公共交通の利用にあたって必要な情報をまとめて示す公共交通マップ(ガイド)を更新し提供する。 (3) インバウンド需要の取り込みを図るため、バス停等の多言語表記の実施 ② 実施主体 (1) 昭和自動車、糸島市 (2) 昭和自動車、糸島市 (3) 昭和自動車、糸島市 ③ 定量的な効果目標 【収支率】令和5年度実績37.74%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年度実績63,715人以上を維持する。 ④ 実施に向けたスケジュール (1)【ベンチ設置】5年経過分は修繕を実施、新規設置は地域要望等必要に応じて設置。 【バス停への路線図等の掲示】筑前前原駅等拠点駅は設置済みのため随時更新、観光利用等が多いバス停などは適宜掲示する。 (2) 毎年のダイヤ改正時期(年2回)実施中のため継続実施 (3) 主要バス停の時刻表を多言語化する ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 本路線は、旧志摩町から旧前原市中心部へと地域間を結ぶ路線である。旧志摩町には鉄道が走っておらず、当該路線が地域住民の生活路線として大きな役割を担っているため、今後とも幹線系統として維持する必要がある。
【参考】R6年度計画の取組状況 (1) バス停のベンチを新規設置又は改修によるバス待ち環境の整備、バス停への路線図の掲示、系統番号表示の実施により、バスを利用しやすくする。 取組実施状況:B 【取組の結果】バスの系統番号表示は2024年4月に実施済み。 【取組内容における課題】バス停数が多く、バス停時刻表の系統番号表示が間に合っていないため、順次差し替えを行っていく。 (2) 公共交通の利用にあたって必要な情報をまとめて示す公共交通マップ(ガイド)を更新し提供する。 取組実施状況:B 【取組の結果】観光地とバス路線を掲載したマップを作成している。 【取組内容における課題】観光地の情報やダイヤ改正により内容が変わるため修正方法について協議する必要がある。 (3) インバウンド需要の取り込みを図るため、バス停等の多言語表記の実施 取組実施状況:C 【取組の結果】バス停の多言語対応はできていないが、オープンデータ化に伴い経路検索サイトでの4ヶ国語対応を行った。 【取組内容における課題】糸島市と協議し、多言語化対象バス停を選定する。

【別紙】

2. 定量的な目標・効果			
9. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項			
計画記載 系統番号	7		
運行事業者名	昭和自動車(株)		
系統名	船越線		
運行区間	(起点) 前原	(経由地) 師吉公民館前 初	(終点) 船越
取組内容			
① 生産性向上に資する取組 (1) バス停のベンチを新規設置又は改修によるバス待ち環境の整備、バス停への路線図の掲示、系統番号表示の実施により、バスを利用しやすくする。 (2) 公共交通の利用にあたって必要な情報をまとめて示す公共交通マップ(ガイド)を更新し提供する。 (3) インバウンド需要の取り込みを図るため、バス停等の多言語表記の実施 ② 実施主体 (1) 昭和自動車、糸島市 (2) 昭和自動車、糸島市 (3) 昭和自動車、糸島市 ③ 定量的な効果目標 【収支率】令和5年度実績20.53%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年度実績29,650人以上を維持する。 ④ 実施に向けたスケジュール (1) 【ベンチ設置】5年経過分は修繕を実施、新規設置は地域要望等必要に応じて設置。 【バス停への路線図等の掲示】筑前前原駅等拠点駅は設置済みのため随時更新、観光利用等が多いバス停などは適宜掲示する。 (2) 毎年のダイヤ改正時期(年2回)実施中のため継続実施 (3) 主要バス停の時刻表を多言語化する ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 本路線は、旧志摩町から旧前原市中心部へと地域間を結ぶ路線である。旧志摩町には鉄道が走っておらず、当該路線が地域住民の生活路線として大きな役割を担っているため、今後とも幹線系統として維持する必要がある。 なお、本系統は1日あたりの計画輸送量が15人に満たないが、上記のとおり、沿線住民の日常生活に必要な不可欠な交通手段であることから、幹線系統として維持するため、国庫補助の交付が必要である。			
【参考】R6年度計画の取組状況 (1) バス停のベンチを新規設置又は改修によるバス待ち環境の整備、バス停への路線図の掲示、系統番号表示の実施により、バスを利用しやすくする。 取組実施状況:B 【取組の結果】バスの系統番号表示は2024年4月に実施済み。 【取組内容における課題】バス停数が多く、バス停時刻表の系統番号表示が間に合っていないため、順次差し替えを行っていく。 (2) 公共交通の利用にあたって必要な情報をまとめて示す公共交通マップ(ガイド)を更新し提供する。 取組実施状況:B 【取組の結果】観光地とバス路線を掲載したマップを作成している。 【取組内容における課題】観光地の情報やダイヤ改正により内容が変わるため修正方法について協議する必要がある。 (3) インバウンド需要の取り込みを図るため、バス停等の多言語表記の実施 取組実施状況:C 【取組の結果】バス停の多言語対応はできていないが、オープンデータ化に伴い経路検索サイトでの4ヶ国語対応を行った。 【取組内容における課題】糸島市と協議し、多言語化対象バス停を選定する。			

【別紙】

2. 定量的な目標・効果			
9. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項			

計画記載 系統番号	8		
運行事業者名	昭和自動車(株)		
系統名	野北線		
運行区間	(起点) 前原	(経由地) 師吉公民館前 野北	(終点) 伊都営業所

取組内容
① 生産性向上に資する取組 (1) バス停のベンチを新規設置又は改修によるバス待ち環境の整備、バス停への路線図の掲示、系統番号表示の実施により、バスを利用しやすくする。 (2) 公共交通の利用にあたって必要な情報をまとめて示す公共交通マップ(ガイド)を更新し提供する。 (3) インバウンド需要の取り込みを図るため、バス停等の多言語表記の実施 ② 実施主体 (1) 昭和自動車、糸島市 (2) 昭和自動車、糸島市 (3) 昭和自動車、糸島市 ③ 定量的な効果目標 【収支率】令和5年度実績19.92%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年度実績27,459人以上を維持する。 ④ 実施に向けたスケジュール (1)【ベンチ設置】5年経過分は修繕を実施、新規設置は地域要望等必要に応じて設置。 【バス停への路線図等の掲示】筑前前原駅等拠点駅は設置済みのため随時更新、観光利用等が多いバス停などは適宜掲示する。 (2) 毎年のダイヤ改正時期(年2回)実施中のため継続実施 (3) 主要バス停の時刻表を多言語化する ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 本路線は、旧志摩町から旧前原市中心部へと地域間を結ぶ路線である。旧志摩町には鉄道が走っておらず、当該路線が地域住民の生活路線として大きな役割を担っているため、今後とも幹線系統として維持する必要がある。 なお、本系統は1日あたりの計画輸送量が15人に満たないが、上記のとおり、沿線住民の日常生活に必要な不可欠な交通手段であることから、幹線系統として維持するため、国庫補助の交付が必要である。
【参考】R6年度計画の取組状況 (1) バス停のベンチを新規設置又は改修によるバス待ち環境の整備、バス停への路線図の掲示、系統番号表示の実施により、バスを利用しやすくする。 取組実施状況:B 【取組の結果】バスの系統番号表示は2024年4月に実施済み。 【取組内容における課題】バス停数が多く、バス停時刻表の系統番号表示が間に合っていないため、順次差し替えを行っていく。 (2) 公共交通の利用にあたって必要な情報をまとめて示す公共交通マップ(ガイド)を更新し提供する。 取組実施状況:B 【取組の結果】観光地とバス路線を掲載したマップを作成している。 【取組内容における課題】観光地の情報やダイヤ改正により内容が変わるため修正方法について協議する必要がある。 (3) インバウンド需要の取り込みを図るため、バス停等の多言語表記の実施 取組実施状況:C 【取組の結果】バス停の多言語対応はできていないが、オープンデータ化に伴い経路検索サイトでの4ヶ国語対応を行った。 【取組内容における課題】糸島市と協議し、多言語化対象バス停を選定する。

【別紙】

2. 定量的な目標・効果			
9. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項			
計画記載 系統番号	9		
運行事業者名	昭和自動車(株)		
系統名	九大線系島(波多江経由)		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	前原駅北口	波多江	九大東ゲート
取組内容			
① 生産性向上に資する取組 (1) バス停のベンチを新規設置又は改修によるバス待ち環境の整備、バス停への路線図の掲示、系統番号表示の実施により、バスを利用しやすくする。 (2) 公共交通の利用にあたって必要な情報をまとめて示す公共交通マップ(ガイド)を更新し提供する。 (3) 福岡県内路線バスロケーションシステムの周知広報 ② 実施主体 (1) 昭和自動車、糸島市 (2) 昭和自動車、糸島市、福岡市 (3) 昭和自動車、糸島市 ③ 定量的な効果目標 【収支率】令和5年度実績収支率46.15%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年度実績32,005人以上を維持する。 ④ 実施に向けたスケジュール (1) 【ベンチ設置】5年経過分は修繕を実施、新規設置は地域要望等必要に応じて設置。 【バス停への路線図等の掲示】筑前前原駅等拠点駅は設置済みのため随時更新、観光利用等が多いバス停などは適宜掲示する。 【系統番号表示の実施】令和5年10月から随時実施。 (2) 毎年のダイヤ改正時期(年2回)実施中のため継続実施 (3) 主要バス停の時刻表を多言語化する ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 当該路線については、糸島市中心部から九州大学伊都キャンパス(福岡市)へと、地域間を結ぶ路線である。糸島市中心部は鉄道が走っているものの、当該路線を代替する輸送手段はない。地域住民の生活路線としてのみならず、九州大学関係者の通勤・通学路線としても大きな役割を担っているため、今後とも幹線系統として維持する必要がある。 【参考】R6年度計画の取組状況 (1) バス停のベンチを新規設置又は改修によるバス待ち環境の整備、バス停への路線図の掲示、系統番号表示の実施により、バスを利用しやすくする。 取組実施状況:B 【取組の結果】バスの系統番号表示は実施済み。 【取組内容における課題】バス停数が多く、バス停時刻表の系統番号表示が間に合っていないため、順次差し替えを行っていく。 (2) 公共交通の利用にあたって必要な情報をまとめて示す公共交通マップ(ガイド)を更新し提供する。 取組実施状況:B 【取組の結果】観光地とバス路線を掲載したマップを作成している。 【取組内容における課題】観光地の情報やダイヤ改正により内容が変わるため修正方法について協議する必要がある。 (3) インバウンド需要の取り込みを図るため、バス停等の多言語表記の実施 取組実施状況:C 【取組の結果】バス停の多言語対応はできていないが、オープンデータ化に伴い経路検索サイトでの4ヶ国語対応を行った。 【取組内容における課題】糸島市と協議し、多言語化対象バス停を選定する。			

【別紙】

2. 定量的な目標・効果			
9. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項			
計画記載 系統番号	10		
運行事業者名	昭和自動車(株)		
系統名	九大線系島(高田経由)		
運行区間	(起点) 周船寺小学校	(経由地) 高田	(終点) 九大東ゲート
取組内容			
① 生産性向上に資する取組 (1) バス停のベンチを新規設置又は改修によるバス待ち環境の整備、バス停への路線図の掲示、系統番号表示の実施により、バスを利用しやすくする。 (2) 公共交通の利用にあたって必要な情報をまとめて示す公共交通マップ(ガイド)を更新し提供する。 (3) 福岡県内路線バスロケーションシステムの周知広報 ② 実施主体 (1) 昭和自動車、糸島市 (2) 昭和自動車、糸島市、福岡市 (3) 昭和自動車、糸島市 ③ 定量的な効果目標 【収支率】令和5年度実績収支率49.94%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年度実績53,679人以上を維持する。 ④ 実施に向けたスケジュール (1) 【ベンチ設置】5年経過分は修繕を実施、新規設置は地域要望等必要に応じて設置。 【バス停への路線図等の掲示】筑前前原駅等拠点駅は設置済みのため随時更新、観光利用等が多いバス停などは適宜掲示する。 【系統番号表示の実施】令和5年10月から随時実施。 (2) 毎年のダイヤ改正時期(年2回)実施中のため継続実施 (3) 主要バス停の時刻表を多言語化する ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 当該路線については、糸島市中心部から九州大学伊都キャンパス(福岡市)へと、地域間を結ぶ路線である。糸島市中心部は鉄道が走っているものの、当該路線を代替する輸送手段はない。地域住民の生活路線としてのみならず、九州大学関係者の通勤・通学路線としても大きな役割を担っているため、今後とも幹線系統として維持する必要がある。 【参考】R6年度計画の取組状況 (1) バス停のベンチを新規設置又は改修によるバス待ち環境の整備、バス停への路線図の掲示、系統番号表示の実施により、バスを利用しやすくする。 取組実施状況:B 【取組の結果】バスの系統番号表示は平成30年8月に実施済み。 【取組内容における課題】バス停数が多く、バス停時刻表の系統番号表示が間に合っていないため、順次差し替えを行っていく。 (2) 公共交通の利用にあたって必要な情報をまとめて示す公共交通マップ(ガイド)を更新し提供する。 取組実施状況:B 【取組の結果】観光地とバス路線を掲載したマップを作成している。 【取組内容における課題】観光地の情報やダイヤ改正により内容が変わるため修正方法について協議する必要がある。 (3) インバウンド需要の取り込みを図るため、バス停等の多言語表記の実施 取組実施状況:C 【取組の結果】バス停の多言語対応はできていないが、オープンデータ化に伴い経路検索サイトでの4ヶ国語対応を行った。 【取組内容における課題】糸島市と協議し、多言語化対象バス停を選定する。			

【別紙】

2. 定量的な目標・効果 10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項			
計画記載 系統番号	11		
運行事業者名	西鉄バス佐賀(株)		
系統名	久留米～鳥栖線		
運行区間	(起点) JR久留米	(経由地) 久留米警察署	(終点) 西鉄鳥栖
取組内容			
①生産性向上に資する取組 (1) 商業・公共施設、イベントにおいてバス利用促進のチラシ配布および、公共交通マップの配布を行い利用者増を図る。 (2) バス利用促進のイベント施策を実施(こどもバス運転士体験など)する。 (3) こども50円バスの実施(土日祝及び春休み・ゴールデンウィーク・夏休み・冬休みの長期休暇期間) (4) 各社が持つPR媒体(SNS、ホームページ、市報等)を活用し周知を図る。			
②実施主体 (1)、(2)、(4)西鉄バス佐賀、久留米市、鳥栖市 (3)西鉄バス佐賀			
③定量的な効果目標 【収支率】令和5年度実績70.0%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年度実績197,332人以上を維持する。			
④実施に向けたスケジュール (1) 公共交通マップ、鳥栖市バスマップを窓口等で配布(2024年4月～) (2) イベント開催に合わせて適宜実施。 (3) 2024年度から土日祝を追加して実施 (4) イベント開催に合わせて適宜実施			
⑤本系統を幹線系統として維持する理由 久留米市と佐賀県鳥栖市を結ぶ本系統は、久留米市から鳥栖市の商工団地周辺への通勤利用客が多く、JR鳥栖駅や西鉄久留米駅に接続していることから、住民の日常生活に必要な不可欠な交通手段となっているため。			
【参考】R6年度計画の取組状況 (1) 当該路線のバス情報チラシ(時刻表等)を作成し、利用者の増を図る。また、路線情報を掲載した公共交通マップを市役所等窓口、各実施イベントで配布することで、市民のバスに対する認知度を上げる。 取組実施状況:A 【取組の結果】 ・公共交通マップを各所にて配布中(バスの乗り方、運行補填についても併せて記載) ・鳥栖市公共交通マップを各所へ配布中 【取組内容における課題】 ・R6年度版公共交通マップはMaaSの取り組みについてPRを新規掲載した。 引き続き掲載内容を見直し改善を図る。			
(2)バス利用促進のイベントを実施(イベント内でチラシ配布を実施)する。 取組実施状況:A 【取組の結果】 ①2023年9月30日鳥栖市バスの日イベントにおいて、乗車体験会・こども運転士体験会を実施した。またイベント時に鳥栖市バスマップを配布した。 ②2024年2月12日JR久留米のりものパラダイスを実施。PRチラシ、ノベルティなどを配布し利用促進を図った。 ③西鉄グループにおいて春休み・ゴールデンウィーク・夏休み・冬休みの期間、こども50円バスを実施した。 ④2024年1月(毎週水曜及び日曜日)に「さがバスまるっとフリーDAY」の取り組みに参加。 佐賀県内のバス停で降車すると無料となるイベント。利用促進に繋がった。 【取組内容における課題】 イベント時のスタッフ確保			
(3)西鉄バス公式Twitterを活用し、沿線の催し情報を発信する。 取組実施状況:B 【取組の結果】 公式X(旧Twitter)、バスナビアプリを活用し継続してPRを実施中 【取組内容における課題】 定期的に発信を行い、見ていただけるユーザを増やすこと。			

【別紙】

2. 定量的な目標・効果
10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	12		
運行事業者名	西鉄バス佐賀(株)		
系統名	綾部線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	鳥栖駅	綾部・国立東佐賀病院前	西鉄久留米

取組内容

- ① 生産性向上に資する取組
- (1) 商業・公共施設、イベントにおいてバス利用促進のチラシ配布および、公共交通マップの配布を行い利用者増を図る。
- (2) バス利用促進のイベント施策を実施(こどもバス運転士体験など)する。
- (3) こども50円バスの実施(土日祝及び春休み・ゴールデンウィーク・夏休み・冬休みの長期休暇期間)
- (4) 各社が持つPR媒体(SNS、ホームページ、市報等)を活用し周知を図る。
- ② 実施主体
- (1)、(2)、(4) 西鉄バス佐賀、久留米市、鳥栖市、みやき町
- (3) 西鉄バス佐賀
- ③ 定量的な効果目標
- 【収支率】令和5年度実績43.6%から収支改善1.0%以上を目標とする。
- 【輸送人員】令和5年度実績106,018人以上を維持する。
- ④ 実施に向けたスケジュール
- (1) 公共交通マップ、鳥栖市バスマップを窓口等で配布(2024年4月～)
- (2) イベント開催に合わせて適宜実施。
- (3) 2024年度から土日祝を追加して実施
- (4) イベント開催に合わせて適宜実施
- ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由
- 久留米市と佐賀県鳥栖市、みやき町を結ぶ本系統は、JR鳥栖駅や西鉄久留米駅と接続しており、みやき町から久留米市への通勤・通院・買い物など、住民の日常生活に必要な交通手段となっているため。
- 【参考】R6年度計画の取組状況
- (1) 当該路線のバス情報チラシ(時刻表等)を作成し、利用者の増を図る。また、路線情報を掲載した公共交通マップを市役所等窓口、各実施イベントで配布することで、市民のバスに対する認知度を上げる。
- 取組実施状況:A
- 【取組の結果】
- ・公共交通マップを各所にて配布中(バスの乗り方、運行補填についても併せて記載)
- ・鳥栖市公共交通マップを各所へ配布中
- 【取組内容における課題】
- R6年度版公共交通マップはMaaSの取り組みについてPRを新規掲載した。
- 引き続き掲載内容を見直し改善を図る。
- (2) バス利用促進のイベントを実施(イベント内でチラシ配布を実施)する。
- 取組実施状況:A
- 【取組の結果】
- ① 2023年9月30日鳥栖市バスの日イベントにおいて、乗車体験会・こども運転士体験会を実施した。またイベント時に鳥栖市バスマップを配布した。
- ② 2024年2月12日JR久留米のりものパラダイスを実施。PRチラシ、ノベルティなどを配布し利用促進を図った。
- ③ 西鉄グループにおいて春休み・ゴールデンウィーク・夏休み・冬休みの期間、こども50円バスを実施した。
- ④ 2024年1月(毎週水曜及び日曜日)に「さがバスまるっとフリーDAY」の取り組みに参加。
- 佐賀県内のバス停で降車すると無料となるイベント。利用促進に繋がった。
- 【取組内容における課題】
- イベント時のスタッフ確保
- (3) 西鉄バス公式Twitterを活用し、沿線の催し情報を発信する。
- 取組実施状況:B
- 【取組の結果】
- 公式X(旧Twitter)、バスナビアプリを活用し継続してPRを実施中
- 【取組内容における課題】
- 定期的に発信を行い、見ていただけるユーザを増やすこと。
- (4) 自動車運転者の労働時間等の改善のための基準を遵守した運行ダイヤを作成し、事業の継続を図る。
- 取組実施状況:A
- 【取組の結果】
- 2024年3月16日にダイヤ改正を行い連続乗務の改善を図った。
- 【取組内容における課題】
- 改善基準告示の範囲内であるものの、長時間勤務を行うダイヤがあるため、改善を図る必要がある。

【別紙】

2. 定量的な目標・効果 10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項			
計画記載 系統番号	13		
運行事業者名	西鉄バス佐賀(株)		
系統名	江見線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	佐賀第二合同庁舎	江見	西鉄久留米
取組内容			
① 生産性向上に資する取組 (1) 商業・公共施設、イベントにおいてバス利用促進のチラシ配布および、公共交通マップの配布を行い利用者増を図る。 (2) バス利用促進のイベント施策を実施(こどもバス運転士体験など)する。 (3) こども50円バスの実施(土日祝及び春休み・ゴールデンウィーク・夏休み・冬休みの長期休暇期間) (4) 各社が持つPR媒体(SNS、ホームページ、市報等)を活用し周知を図る。			
② 実施主体 (1)、(2)、(4)西鉄バス佐賀、久留米市、佐賀県、佐賀市、神崎市、みやき町 (3)西鉄バス佐賀			
③ 定量的な効果目標 【収支率】令和5年実績収支率58.7%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年実績187,134人以上を維持する。			
④ 実施に向けたスケジュール (1) 公共交通マップ、鳥栖市バスマップを窓口等で配布(2024年4月～) (2) イベント開催に合わせて適宜実施。 (3) 2024年度から土日祝を追加して実施 (4) イベント開催に合わせて適宜実施			
⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 久留米市と佐賀県佐賀市、神崎市等を結ぶ本系統は、西鉄久留米駅及びJR久留米駅、JR佐賀駅に接続していることから、通勤・通学、買い物利用等の住民の日常生活に必要な不可欠な交通手段となっているため。			
【参考】R6年度計画の取組状況 (1) 当該路線のバス情報チラシ(時刻表等)を作成し、利用者の増を図る。また、路線情報を掲載した公共交通マップを市役所等窓口、各実施イベントで配布することで、市民のバスに対する認知度を上げる。 取組実施状況:A 【取組の結果】 ・公共交通マップを各所にて配布中(バスの乗り方、運行補填についても併せて記載) ・鳥栖市公共交通マップを各所へ配布中 【取組内容における課題】 R6年度版公共交通マップはMaaSの取り組みについてPRを新規掲載した。 引き続き掲載内容を見直し改善を図る。			
(2) バス利用促進のイベントを実施(イベント内でチラシ配布を実施)する。 取組実施状況:A 【取組の結果】 ①2023年9月30日鳥栖市バスの日イベントにおいて、乗車体験会・こども運転士体験会を実施した。またイベント時に鳥栖市バスマップを配布した。 ②2024年2月12日JR久留米のりものパラダイスを実施。PRチラシ、ノベルティなどを配布し利用促進を図った。 ③西鉄グループにおいて春休み・ゴールデンウィーク・夏休み・冬休みの期間、こども50円バスを実施した。 ④2024年1月(毎週水曜及び日曜日)に「さがバスまるっとフリーDAY」の取り組みに参加。 佐賀県内のバス停で降車すると無料となるイベント。利用促進に繋がった。 【取組内容における課題】 イベント時のスタッフ確保			
(3) 西鉄バス公式Twitterを活用し、沿線の催し情報を発信する。 取組実施状況:B 【取組の結果】 公式X(旧Twitter)、バスナビアプリを活用し継続してPRを実施中 【取組内容における課題】 定期的に発信を行い、見ていただけるユーザを増やすこと。			
(4) 今後の路線のあり方について協議を開始し検討する。 取組実施状況:B 【取組の結果】 関係自治体と協議中 【取組内容における課題】 今後の路線の在り方検討			

【別紙】

2. 定量的な目標・効果
10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	14		
運行事業者名	西鉄バス佐賀(株)		
系統名	神埼線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	佐賀第二合同庁舎	目達原	西鉄久留米

取組内容

- ① 生産性向上に資する取組
- (1) 商業・公共施設、イベントにおいてバス利用促進のチラシ配布および、公共交通マップの配布を行い利用者増を図る。
 - (2) バス利用促進のイベント施策を実施(こどもバス運転士体験など)する。
 - (3) こども50円バスの実施(土日祝及び春休み・ゴールデンウィーク・夏休み・冬休みの長期休暇期間)
 - (4) 各社が持つPR媒体(SNS、ホームページ、市報等)を活用し周知を図る。
- ② 実施主体
- (1)、(2)、(4)西鉄バス佐賀、久留米市、佐賀市、神埼市、吉野ヶ里町、上峰町、みやき町
 - (3)西鉄バス佐賀
- ③ 定量的な効果目標
- 【収支率】令和5年度実績収支率67.6%から収支改善1.0%以上を目標とする。
- 【輸送人員】令和5年度実績196,976人以上を維持する。
- ※西鉄バス佐賀(株)のみの実績
- ④ 実施に向けたスケジュール
- (1) 公共交通マップ、鳥栖市バスマップを窓口等で配布(2024年4月～)
 - (2) イベント開催に合わせて適宜実施。
 - (3) 2024年度から土日祝を追加して実施
 - (4) イベント開催に合わせて適宜実施
- ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由
- 久留米市と佐賀県佐賀市、神埼市等を結ぶ本系統は、西鉄久留米駅及びJR久留米駅、JR佐賀駅に接続していることから、通勤・通学、買い物利用等の住民の日常生活に必要な交通手段となっているため。

- 【参考】R6年度計画の取組状況
- (1) 当該路線のバス情報チラシ(時刻表等)を作成し、利用者の増を図る。また、路線情報を掲載した公共交通マップを市役所等窓口、各実施イベントで配布することで、市民のバスに対する認知度を上げる。
- 取組実施状況:A
- 【取組の結果】
- ・公共交通マップを各所に配布中(バスの乗り方、運行補填についても併せて記載)
 - ・鳥栖市公共交通マップを各所へ配布中
- 【取組内容における課題】
- R6年度版公共交通マップはMaaSの取り組みについてPRを新規掲載した。
- 引き続き掲載内容を見直し改善を図る。
- (2) バス利用促進のイベントを実施(イベント内でチラシ配布を実施)する。
- 取組実施状況:A
- 【取組の結果】
- ①2023年9月30日鳥栖市バスの日イベントにおいて、乗車体験会・こども運転士体験会を実施した。またイベント時に鳥栖市バスマップを配布した。
 - ②2024年2月12日JR久留米のりものパラダイスを実施。PRチラシ、ノベルティなどを配布し利用促進を図った。
 - ③西鉄グループにおいて春休み・ゴールデンウィーク・夏休み・冬休みの期間、こども50円バスを実施した。
 - ④2024年1月(毎週水曜及び日曜日)に「さがバスまるっとフリーDAY」の取り組みに参加。
佐賀県内のバス停で降車すると無料となるイベント。利用促進に繋がった。
- 【取組内容における課題】
- イベント時のスタッフ確保
- 各種PRを路線沿線だけでなく、近隣エリアにも実施すること。
- (3) 西鉄バス公式Twitterを活用し、沿線の催し情報を発信する。
- 取組実施状況:B
- 【取組の結果】
- 公式X(旧Twitter)、バスナビアプリを活用し継続してPRを実施中
- 【取組内容における課題】
- 定期的に発信を行い、見ていただけるユーザを増やすこと。

【別紙】

2. 定量的な目標・効果
10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	15		
運行事業者名	西鉄バス佐賀(株)		
系統名	神埼線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	目達原	長門石	西鉄久留米

取組内容

- ① 生産性向上に資する取組
- (1) 商業・公共施設、イベントにおいてバス利用促進のチラシ配布および、公共交通マップの配布を行い利用者増を図る。
 - (2) バス利用促進のイベント施策を実施(こどもバス運転士体験など)する。
 - (3) こども50円バスの実施(土日祝及び春休み・ゴールデンウィーク・夏休み・冬休みの長期休暇期間)
 - (4) 各社が持つPR媒体(SNS、ホームページ、市報等)を活用し周知を図る。
- ② 実施主体
- (1)、(2)、(4)西鉄バス佐賀、久留米市、吉野ヶ里町、上峰町、みやき町
 - (3)西鉄バス佐賀
- ③ 定量的な効果目標
- 【収支率】令和5年度実績収支率97.0%から収支改善1.0%以上を目標とする。
- 【輸送人員】令和5年度実績184,070人以上を維持する。
- ※西鉄バス佐賀(株)のみの実績
- ④ 実施に向けたスケジュール
- (1) 公共交通マップを窓口等で配布(2024年4月～)
 - (2) イベント開催に合わせて適宜実施。
 - (3) 2024年度から土日祝を追加して実施
 - (4) イベント開催に合わせて適宜実施
- ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由
- 久留米市とみやき町、上峰町および吉野ヶ里町を結ぶ本系統は、西鉄久留米駅及びJR久留米駅、目達原に接続していることから、通勤・通学、買い物利用等の住民の日常生活に必要な交通手段となっているため。

【別紙】

2. 定量的な目標・効果 10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項			
計画記載 系統番号	16		
運行事業者名	西鉄バス久留米(株)		
系統名	沖新線		
運行区間	(起点) 早津江	(経由地) 布橋	(終点) 西鉄柳川

取組内容
① 生産性向上に資する取組 (1) 商業・公共施設、イベントにおいてバス利用促進のチラシ配布および、公共交通マップの配布を行い利用者増を図る。 (2) バス利用促進のイベント施策を実施(こどもバス運転士体験など)する。 (3) こども50円バスの実施(土日祝及び春休み・ゴールデンウィーク・夏休み・冬休みの長期休暇期間) (4) 各社が持つPR媒体(SNS、ホームページ、市報等)を活用し周知を図る。
② 実施主体 (1)、(2)、(4) 西鉄バス久留米、大川市、柳川市 (3) 西鉄バス久留米
③ 定量的な効果目標 【収支率】令和5年度実績収支率39.3%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年度実績73,971人以上を維持する。
④ 実施に向けたスケジュール (1) 令和6年度版公共交通マップを配布(2024年4月～) (2) イベント開催に合わせて適宜実施。 (3) 2024年度から土日祝を追加して実施 (4) イベント開催に合わせて適宜実施
⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 柳川市、大川市、佐賀県佐賀市を結ぶ本系統は、西鉄柳川駅に接続し、住民の日常生活に必要不可欠な交通手段となっている。また、柳川の観光エリアである沖端地区へ、観光目的の方々にも御利用いただいている路線となっているため。
【参考】R6年度計画の取組状況 (1) 市内商業施設(ゆめタウン、アスタロピスタ、ルミエール)などにおけるバス利用促進のチラシ配布を行い、利用者の増を図る。 取組実施状況:A 【取組の結果】市内公共施設や病院等でバスの時刻表や無料乗車イベントのチラシ配布を行った。 【取組内容における課題】普段からバスを利用しない人の目に留まるようなチラシデザイン作成やイベントの企画の検討
(2) バス利用促進のイベントを実施(イベント内でチラシ配布を実施)する。 取組実施状況:A 【取組の結果】 ① 2023年12月22日～23日 柳川市内での降車を対象に運賃が無料となるイベントを実施。利用者アンケートを行った。 ② 春休みや夏休みなどの長期休暇および土曜・日祝日において、こども(小学生)50円バスを西鉄グループ全社で実施し、将来のバスユーザーの獲得と保護者同伴による利用者増加を図っている。 ③ 2024年1月(毎週水曜及び日曜日)に「さがバスまるっとフリーDAY」の取り組みに参加。 佐賀県内のバス停で降車すると無料となるイベント。利用促進に繋がった。 ④ 2024年2月9日～福岡県MaaSの取り組みとして「有明のりのり2DAYきっぷ」を発売開始 バス(柳川・大牟田・みやま)エリアフリー・JR線・西鉄電車に乗車できる特典付き乗車券。 【取組内容における課題】 各種PRを路線沿線だけでなく、近隣エリアにも実施すること。
(3) 沿線病院や観光施設等で交通マップ等を配布し、沿線住民や観光客の利用増を図る。 取組実施状況:A 【取組の結果】 公共交通マップを各所にて配布済(バスの乗り方、運行補填についても併せて記載) 【取組内容における課題】 ・R6年度版公共交通マップはMaaSの取り組みについてPRを新規掲載した。 引き続き掲載内容を見直し改善を図る。

【別紙】

2. 定量的な目標・効果
10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	17		
運行事業者名	西鉄バス久留米(株)		
系統名	羽犬塚線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	大野島農協前	堤・水田天満宮 恋木神社	羽犬塚駅前

取組内容

① 生産性向上に資する取組

- (1) 商業・公共施設、イベントにおいてバス利用促進のチラシ配布および、公共交通マップの配布を行い利用者増を図る。
(2) バス利用促進のイベント施策を実施(こどもバス運転士体験など)する。
(3) こども50円バスの実施(土日祝及び春休み・ゴールデンウィーク・夏休み・冬休みの長期休暇期間)
(4) 各社が持つPR媒体(SNS、ホームページ、市報等)を活用し周知を図る。

② 実施主体

- (1)、(2)、(4)西鉄バス久留米、大川市、筑後市、大木町
(3)西鉄バス久留米

③ 定量的な効果目標(みなし系統含む)

【収支率】令和5年度実績24.2%から収支改善1.0%以上を目標とする。
【輸送人員】令和5年度実績40,343人以上を維持する。

④ 実施に向けたスケジュール

- (1) 令和6年度版公共交通マップを配布(2024年4月～)
筑後市公共交通マップを配布(随時)
(2) イベント開催に合わせて適宜実施。
(3) 2024年度から土日祝を追加して実施
(4) イベント開催に合わせて適宜実施

⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由

大川市、大木町、筑後市を結ぶ本系統は、西鉄八丁牟田駅及びJR羽犬塚駅に接続し、住民の日常生活に必要不可欠な交通手段となっているため。

【参考】R6年度計画の取組状況

(1) 当該路線のバス情報チラシ(時刻表等)を作成し、利用者の増を図る。また、路線情報を掲載した公共交通マップを市民課等窓口で配布することで、住民のバスに対する認知度を上げる。

取組実施状況:A

【取組の結果】

・2023年10月15日ちっご祭において、筑後市・堀川バス(株)と合同で公共交通をPRした。

【取組内容における課題】

・継続した利用促進策の実施。

(2) バス利用促進のイベントを実施(イベント内でチラシ配布を実施)する。

取組実施状況:A

【取組の結果】

- ① 2023年12月2日にゆめモール筑後にてイベントを実施(自治体・バス・タクシー各社が連携)
② 春休みや夏休みなどの長期休暇および土曜・日祝日において、こども(小学生)50円バスを西鉄グループ全社で実施し、将来のバスユーザーの獲得と保護者同伴による利用者増加を図っている。

【取組内容における課題】

- ・各種PRを路線沿線だけでなく、近隣エリアにも実施すること。
・こども50円バスの土日祝を適用日としたPRの実施

(3) 西鉄バス公式Twitterを活用し、沿線の催し情報を発信する。

取組実施状況:B

【取組の結果】

公式X(旧Twitter)、バスナビアプリを活用し継続してPRを実施中

【取組内容における課題】

定期的に発信を行い、見ていただけるユーザを増やすこと。

(4) 沿線学校にてバスの乗り方教室を実施する。

取組実施状況:A

【取組の結果】

2023年10月6日に西鉄バス久留米(株)船小屋車庫においてバス教室を実施

【取組内容における課題】

乗務員不足に伴い、小学校での出前授業を行うことが難しくなっている。営業所内で行うなど実施可能な手段を模索したい。

【別紙】

2. 定量的な目標・効果 10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項			
計画記載 系統番号	18		
運行事業者名	西鉄バス久留米(株)		
系統名	大善寺線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	大川橋	下林・大善寺	JR久留米
取組内容			
① 生産性向上に資する取組 (1) 久留米市城島地域を運行するフィーダー系統(よりみちバス)と当該路線バスで相互に利用できる、「1日乗車券」の周知を強化することで、路線バスの利用者の増を図る。 (2) 商業・公共施設、イベントにおいてバス利用促進のチラシ配布および、公共交通マップの配布を行い利用者増を図る。 (3) バス利用促進のイベント施策を実施(子どもバス運転士体験など)する。 (4) 子ども50円バスの実施(土日祝及び春休み・ゴールデンウィーク・夏休み・冬休みの長期休暇期間) (5) 各社が持つPR媒体(SNS、ホームページ、市報等)を活用し周知を図る。 ② 実施主体 (1) 西鉄バス久留米、久留米市 (2)、(3)、(5)西鉄バス久留米、久留米市、大川市 (4) 西鉄バス久留米 ③ 定量的な効果目標 【収支率】令和5年度実績40.1%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年度実績122,164人以上を維持する。 ④ 実施に向けたスケジュール (1) 「1日乗車券」の利用促進の呼びかけ(随時) (2) 令和6年度版公共交通マップを配布(2024年4月～) (3) イベント開催に合わせて適宜実施。 (4) 2024年度から土日祝を追加して実施 (5) イベント開催に合わせて適宜実施 ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 大川市、久留米市を結ぶ本系統は、西鉄大善寺駅及びJR久留米駅に接続し、沿線住民にとって通勤・通学、買い物等の日常生活に必要な不可欠な交通手段となっているため。			
【参考】R6年度計画の取組状況 (1)久留米市城島地域を運行するフィーダー系統(よりみちバス)と当該路線バスで相互に利用できる、「1日乗車券」の周知を強化することで、路線バスの利用者の増を図る。 取組実施状況:B 【取組の結果】:コミュニティセンターでよりみちバス路線図(1日乗車券内容を記載)を配布中。 【取組内容における課題】地域内で移動が完結している可能性があり、1日乗車券を使った路線バスのご利用が少ないこと。 (2)当該路線のバス情報チラシ(時刻表等)を作成し、利用者の増を図る。また、路線情報を掲載した公共交通マップを市民課等窓口で配布することで、住民のバスに対する認知度を上げる。 取組実施状況:A 【取組の結果】 公共交通マップを各所にて配布済(バスの乗り方、運行補填についても併せて記載) 【取組内容における課題】 ・R6年度版公共交通マップはMaaSの取り組みについてPRを新規掲載した。 引き続き掲載内容を見直し改善を図る。 (3)バス利用促進のイベントを実施(イベント内でチラシ配布を実施)する。 取組実施状況:A 【取組の結果】 ①2023年12月15日～ 福岡県MaaSの取り組みとして「くるめGoGoきっぷ」を発売開始。 久留米市中心部の路線バスが1日乗り放題となる特典付き乗車券。 ②2024年2月12日JR久留米のりものパラダイスを実施。PRチラシ、ノベルティなどを配布し利用促進を図った。 同日久留米シティプラザにおいて「ちゃりフェスpuls」を開催。サイクルバス乗車体験等を行い利用促進を図った。 【取組内容における課題】 各種PRを路線沿線だけでなく、近隣エリアにも実施すること。 (4)西鉄バス公式Twitterを活用し、沿線の催し情報を発信する。 取組実施状況:B 【取組の結果】 公式X(旧Twitter)、バスナビアプリを活用し継続してPRを実施中 【取組内容における課題】 定期的に発信を行い、見ていただけるユーザを増やすこと。 (5)沿線学校にてバスの乗り方教室を実施する。 取組実施状況:A 【取組の結果】 2023年11月に城島小学校2年生を対象に乗り方教室を実施した。 【取組内容における課題】 乗務員不足に伴い、小学校での出前授業を行うことが難しくなっている。営業所内で行うなど実施可能な手段を模索したい。 (6)自動車運転者の労働時間等の改善のための基準を遵守した運行ダイヤを作成し、事業の継続を図る。 取組実施状況:A 【取組の結果】 2023年10月1日にダイヤ改正を行い改善を図った。 【取組内容における課題】 減便により運送収入の低下が予想される。			

【別紙】

2. 定量的な目標・効果 10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項			
計画記載 系統番号	19		
運行事業者名	西鉄バス久留米(株)		
系統名	北野線		
運行区間	(起点) 今村天主堂	(経由地) 北野	(終点) 西鉄久留米

取組内容
① 生産性向上に資する取組 (1) 久留米市北野地域を運行するフィーダー系統(よりみちバス)と当該路線バスで相互に利用できる、「1日乗車券」の周知を強化することで、路線バス利用者の増を図る。 (2) 商業・公共施設、イベントにおいてバス利用促進のチラシ配布および、公共交通マップの配布を行い利用者増を図る。 (3) バス利用促進のイベント施策を実施(こどもバス運転士体験など)する。 (4) こども50円バスの実施(土日祝及び春休み・ゴールデンウィーク・夏休み・冬休みの長期休暇期間) (5) 各社が持つPR媒体(SNS、ホームページ、市報等)を活用し周知を図る。 ② 実施主体 (1) 西鉄バス久留米、久留米市 (2)、(3)、(5) 西鉄バス久留米、久留米市、大刀洗町 (4) 西鉄バス久留米 ③ 定量的な効果目標 【収支率】令和5年度実績51.5%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年度実績65,693人以上を維持する。 ④ 実施に向けたスケジュール (1) 「1日乗車券」の利用促進の呼びかけ(随時) (2) 令和6年度版公共交通マップを配布(2024年4月～) (3) イベント開催に合わせて適宜実施。 (4) 2024年度から土日祝を追加して実施 (5) イベント開催に合わせて適宜実施 ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 大刀洗町と久留米市を結ぶ本系統は、西鉄久留米駅に接続しており、沿線住民にとって通勤・通学、買い物等の生活路線として住民の日常生活に必要な不可欠な交通手段である。また、沿線の北野地区では、久留米市の「よりみちバス」と接続し、同地区から久留米市街地への重要な移動手段でもあるため。 【参考】R6年度計画の取組状況 (1) 久留米市北野地域を運行するフィーダー系統(よりみちバス)と当該路線バスで相互に利用できる、「1日乗車券」の周知を強化することで、路線バス利用者の増を図る。 取組実施状況:B 【取組の結果】:コミュニティーセンターでよりみちバス路線図(1日乗車券内容を記載)を配布中。 【取組内容における課題】地域内で移動が完結している可能性があり、1日乗車券を使った路線バスのご利用が少ないこと。 (2) 当該路線のバス情報チラシ(時刻表等)を作成し、利用者の増を図る。また、路線情報を掲載した公共交通マップを市役所等窓口で配布することで、住民のバスに対する認知度を上げる。 取組実施状況:A 【取組の結果】 公共交通マップを各所にて配布済(バスの乗り方、運行補填についても併せて記載) 【取組内容における課題】 ・R6年度版公共交通マップはMaaSの取り組みについてPRを新規掲載した。 引き続き掲載内容を見直し改善を図る。 (3) バス利用促進のイベントを実施(イベント内でチラシ配布を実施)する。 取組実施状況:A 【取組の結果】 ①2023年12月15日～ 福岡県MaaSの取り組みとして「くるめGoGoきっぷ」を発売開始。 久留米市中心部の路線バスが1日乗り放題となる特典付き乗車券。 ②2024年2月12日JR久留米のりものパラダイスを実施。PRチラシ、ノベルティなどを配布し利用促進を図った。 同日久留米シティプラザにおいて「ちゃりフェスpulse」を開催。サイクルバス乗車体験等を行い利用促進を図った。 【取組内容における課題】 ・各種PRを路線沿線だけでなく、近隣エリアにも実施すること。 ・今村天主堂補修工事に伴う観光客の減少。 (4) 西鉄バス公式Twitterを活用し、沿線の催し情報を発信する。 取組実施状況:B 【取組の結果】 公式X(旧Twitter)、バスナビアプリを活用し継続してPRを実施中 【取組内容における課題】 定期的に発信を行い、見ていただけるユーザを増やすこと。 (5) バスの乗り方教室を実施 取組実施状況:D 【取組の結果】 ・北野線沿線で乗り方教室(小学校への出前授業)などが現在実施できていない。 【取組内容における課題】 乗務員不足に伴い、小学校での出前授業を行うことが難しくなっている。営業所内で行うなど実施可能な手段を模索したい。

【別紙】

2. 定量的な目標・効果
10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	20		
運行事業者名	西鉄バス久留米(株)		
系統名	草野線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	上原	草野駅前	JR久留米

取組内容

①生産性向上に資する取組

- (1) 商業・公共施設、イベントにおいてバス利用促進のチラシ配布および、公共交通マップの配布を行い利用者増を図る。
(2) バス利用促進のイベント施策を実施(こどもバス運転士体験など)する。
(3) こども50円バスの実施(土日祝及び春休み・ゴールデンウィーク・夏休み・冬休みの長期休暇期間)
(4) 各社が持つPR媒体(SNS、ホームページ、市報等)を活用し周知を図る。

②実施主体

- (1)、(2)、(4) 西鉄バス久留米、久留米市
(3) 西鉄バス久留米

③定量的な効果目標

- 【収支率】令和5年度実績70.1%から収支改善1.0%以上を目標とする。
【輸送人員】令和5年度実績126,366人以上を維持する。

④実施に向けたスケジュール

- (1) 令和6年度版公共交通マップを配布(2024年4月～)
(2) イベント開催に合わせて適宜実施。
(3) 2024年度から土日祝を追加して実施
(4) イベント開催に合わせて適宜実施

⑤本系統を幹線系統として維持する理由

久留米市田主丸地区と久留米市街を結ぶ本系統は、沿線住民にとって通勤・通学、買い物等の生活路線として必要不可欠な交通手段となっているため。

【参考】R6年度計画の取組状況

- (1) 当該路線のバス情報チラシ(時刻表等)を作成し、利用者の増を図る。また、路線情報を掲載した公共交通マップを市役所等窓口で配布することで、住民のバスに対する認知度を上げる。

取組実施状況:A

【取組の結果】

公共交通マップを各所にて配布済(バスの乗り方、運行補填についても併せて記載)

【取組内容における課題】

・R6年度版公共交通マップはMaaSの取り組みについてPRを新規掲載した。
引き続き掲載内容を見直し改善を図る。

- (2) バス利用促進のイベントを実施(イベント内でチラシ配布を実施)する。

取組実施状況:A

【取組の結果】

- ①2023年12月15日～ 福岡県MaaSの取り組みとして「くるめGoGoきっぷ」を発売開始。
久留米市中心部の路線バスが1日乗り放題となる特典付き乗車券。
②2024年2月12日JR久留米のりものパラダイスを実施。PRチラシ、ノベルティなどを配布し利用促進を図った。
同日久留米シティプラザにおいて「ちゃりフェスpuls」を開催。サイクルバス乗車体験等を行い利用促進を図った。
③沿線小学校(草野小学校・吉井小学校)と連携し季節に合わせた装飾バスを運行した。
④2023年7月大雨の影響により2023年11月24日まで土砂災害による通行止め区間を迂回運行した。
【取組内容における課題】
各種PRを路線沿線だけでなく、近隣エリアにも実施すること。
新体制となっているため、沿線小学校と継続した連携を図る必要があること。

- (3) 西鉄バス公式Twitterを活用し、沿線の催し情報を発信する。

取組実施状況:B

【取組の結果】

公式X(旧Twitter)、バスナビアプリを活用し継続してPRを実施中

【取組内容における課題】

定期的に発信を行い、見ていただけるユーザを増やすこと。

【別紙】

2. 定量的な目標・効果
10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	21		
運行事業者名	西鉄バス久留米(株)		
系統名	西牟田線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	JR久留米	久留米市役所	羽犬塚駅前

取組内容

① 生産性向上に資する取組

- (1) 商業・公共施設、イベントにおいてバス利用促進のチラシ配布および、公共交通マップの配布を行い利用者増を図る。
- (2) バス利用促進のイベント施策を実施(こどもバス運転士体験など)する。
- (3) こども50円バスの実施(土日祝及び春休み・ゴールデンウィーク・夏休み・冬休みの長期休暇期間)
- (4) 各社が持つPR媒体(SNS、ホームページ、市報等)を活用し周知を図る。

② 実施主体

- (1)、(2)、(4) 西鉄バス久留米、久留米市、筑後市
- (3) 西鉄バス久留米

③ 定量的な効果目標

【収支率】令和5年度実績59.7%から収支改善1.0%以上を目標とする。

【輸送人員】令和5年度実績60,502人以上を維持する。

④ 実施に向けたスケジュール

- (1) 令和6年度版公共交通マップを配布(2024年4月～)
筑後市公共交通マップを配布(随時)
- (2) イベント開催に合わせて適宜実施。
- (3) 2024年度から土日祝を追加して実施
- (4) イベント開催に合わせて適宜実施

⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由

久留米市、筑後市を結ぶ本系統は、JR荒木駅及びJR久留米駅、西鉄久留米駅に接続し、住民の日常生活に必要な不可欠な交通手段となっているため。

【参考】R6年度計画の取組状況

(1) 当該路線のバス情報チラシ(時刻表等)を作成し、利用者の増を図る。また、路線情報を掲載した公共交通マップを市役所等窓口で配布することで、住民のバスに対する認知度を上げる。

取組実施状況: A

【取組の結果】

公共交通マップを各所にて配布済(バスの乗り方、運行補填についても併せて記載)

【取組内容における課題】

- ・R6年度版公共交通マップはMaaSの取り組みについてPRを新規掲載した。
- 引き続き掲載内容を見直し改善を図る。

(2) バス利用促進のイベントを実施(イベント内でチラシ配布を実施)する。

取組実施状況: A

【取組の結果】

- ① 2023年12月2日にゆめモール筑後においてイベントを実施(自治体・バス・タクシー各社が連携)
 - ② 2023年12月15日～ 福岡県MaaSの取り組みとして「くるめGoGoきっぷ」を発売開始。
久留米市中心部の路線バスが1日乗り放題となる特典付き乗車券。
 - ③ 2024年2月12日JR久留米のりものパラダイスを実施。PRチラシ、ノベルティなどを配布し利用促進を図った。
- 同日久留米シティプラザにおいて「ちゃりフェスpuls」を開催。サイクルバス乗車体験等を行い利用促進を図った。

【取組内容における課題】

各種PRを路線沿線だけでなく、近隣エリアにも実施すること。

(3) 西鉄バス公式Twitterを活用し、沿線の催し情報を発信する。

取組実施状況: B

【取組の結果】

公式X(旧Twitter)、バスナビアプリを活用し継続してPRを実施中

【取組内容における課題】

定期的に発信を行い、見ていただけるユーザを増やすこと。

【別紙】

2. 定量的な目標・効果
10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	22		
運行事業者名	西鉄バス久留米(株)		
系統名	草野線		
運行区間	(起点) 上原	(経由地) 草野駅前	(終点) 西鉄久留米

取組内容

① 生産性向上に資する取組

- (1) 商業・公共施設、イベントにおいてバス利用促進のチラシ配布および、公共交通マップの配布を行い利用者増を図る。
(2) バス利用促進のイベント施策を実施(こどもバス運転士体験など)する。
(3) こども50円バスの実施(土日祝及び春休み・ゴールデンウィーク・夏休み・冬休みの長期休暇期間)
(4) 各社が持つPR媒体(SNS、ホームページ、市報等)を活用し周知を図る。

② 実施主体

- (1)、(2)、(4)西鉄バス久留米、久留米市
(3) 西鉄バス久留米

③ 定量的な効果目標(みなし系統含む)

【収支率】令和5年度実績41.1%から収支改善1.0%以上を目標とする。
【輸送人員】令和5年度実績64,968人以上を維持する。

④ 実施に向けたスケジュール

- (1) 令和6年度版公共交通マップを配布(2024年4月～)
(2) イベント開催に合わせて適宜実施。
(3) 2024年度から土日祝を追加して実施
(4) イベント開催に合わせて適宜実施

⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由

久留米市田主丸地区と久留米市街を結ぶ本系統は、沿線住民にとって通勤・通学、買い物等の生活路線として必要不可欠な交通手段となっているため。

【参考】R6年度計画の取組状況

(1) 当該路線のバス情報チラシ(時刻表等)を作成し、利用者の増を図る。また、路線情報を掲載した公共交通マップを市役所等窓口で配布することで、住民のバスに対する認知度を上げる。

取組実施状況:A

【取組の結果】

公共交通マップを各所にて配布済(バスの乗り方、運行補填についても併せて記載)

【取組内容における課題】

・R6年度版公共交通マップはMaaSの取り組みについてPRを新規掲載した。
引き続き掲載内容を見直し改善を図る。

(2) バス利用促進のイベントを実施(イベント内でチラシ配布を実施)する。

取組実施状況:A

【取組の結果】

① 2023年12月15日～ 福岡県MaaSの取り組みとして「くるめGoGoきっぷ」を発売開始。

久留米市中心部の路線バスが1日乗り放題となる特典付き乗車券。

② 2024年2月12日JR久留米のりものパラダイスを実施。PRチラシ、ノベルティなどを配布し利用促進を図った。

同日久留米シティプラザにおいて「チャリフェスpuls」を開催。サイクルバス乗車体験等を行い利用促進を図った。

③ 沿線小学校(草野小学校・吉井小学校)と連携し季節に合わせた装飾バスを運行した。

④ 2023年7月大雨の影響により2023年11月24日まで土砂災害による通行止め区間を迂回運行した。

【取組内容における課題】

各種PRを路線沿線だけでなく、近隣エリアにも実施すること。
新体制となっているため、沿線小学校と継続した連携を図る必要があること。

(3) 西鉄バス公式Twitterを活用し、沿線の催し情報を発信する。

取組実施状況:B

【取組の結果】

公式X(旧Twitter)、バスナビアプリを活用し継続してPRを実施中

【取組内容における課題】

定期的に発信を行い、見ていただけるユーザを増やすこと。

【別紙】

2. 定量的な目標・効果
10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	23		
運行事業者名	西鉄バス久留米(株)		
系統名	久留米～船小屋線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	JR筑後船小屋	羽犬塚	JR久留米

取組内容

① 生産性向上に資する取組

- (1) 商業・公共施設、イベントにおいてバス利用促進のチラシ配布および、公共交通マップの配布を行い利用者増を図る。
- (2) バス利用促進のイベント施策を実施(こどもバス運転士体験など)する。
- (3) こども50円バスの実施(土日祝及び春休み・ゴールデンウィーク・夏休み・冬休みの長期休暇期間)
- (4) 各社が持つPR媒体(SNS、ホームページ、市報等)を活用し周知を図る。

② 実施主体

- (1)、(2)、(4)西鉄バス久留米、筑後市
- (3) 西鉄バス久留米

③ 定量的な効果目標

【収支率】令和5年度実績78.5%から収支改善1.0%以上を目標とする。

【輸送人員】令和5年度実績170,667人以上を維持する。

④ 実施に向けたスケジュール

- (1) 令和6年度版公共交通マップを配布(2024年4月～)
- 筑後市公共交通マップを配布(随時)
- (2) イベント開催に合わせて適宜実施。
- (3) 2024年度から土日祝を追加して実施
- (4) イベント開催に合わせて適宜実施

⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由

久留米市、筑後市を結ぶ本系統は、JR筑後船小屋駅、JR羽犬塚駅及びJR久留米駅、西鉄久留米駅に接続し、住民の日常生活に必要な不可欠な交通手段となっているため。

【参考】R6年度計画の取組状況

(1) 当該路線のバス情報チラシ(時刻表等)を作成し、利用者の増を図る。また、路線情報を掲載した公共交通マップを市役所等窓口で配布することで、住民のバスに対する認知度を上げる。

取組実施状況:A

【取組の結果】

公共交通マップを各所にて配布済(バスの乗り方、運行補填についても併せて記載)

【取組内容における課題】

・R6年度版公共交通マップはMaaSの取り組みについてPRを新規掲載した。

引き続き掲載内容を見直し改善を図る。

(2) バス利用促進のイベントを実施(イベント内でチラシ配布を実施)する。

取組実施状況:A

【取組の結果】

- ① 2023年12月2日にゆめモール筑後においてイベントを実施(自治体・バス・タクシー各社が連携)
- ② 2023年12月15日～ 福岡県MaaSの取り組みとして「くるめGoGoきっぷ」を発売開始。
- 久留米市中心部の路線バスが1日乗り放題となる特典付き乗車券。
- ③ 2024年2月12日JR久留米のりものパラダイスを実施。PRチラシ、ノベルティなどを配布し利用促進を図った。
- 同日久留米シティプラザにおいて「ちゃりフェスpuls」を開催。サイクルバス乗車体験等を行い利用促進を図った。

【取組内容における課題】

イベント時のスタッフ確保

各種PRを路線沿線だけでなく、近隣エリアにも実施すること。

(3) 西鉄バス公式Twitterを活用し、沿線の催し情報を発信する。

取組実施状況:B

【取組の結果】

公式X(旧Twitter)、バスナビアプリを活用し継続してPRを実施中

【取組内容における課題】

定期的に発信を行い、見ていただけるユーザを増やすこと。

【別紙】

2. 定量的な目標・効果
10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	24		
運行事業者名	西鉄バス筑豊(株)		
系統名	小竹・天道線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	新飯塚駅	小竹上町	赤池工業団地

取組内容

- ① 生産性向上に資する取組
(1) 公共施設内でのポスター掲示やチラシの配架を行い、市内各種イベントにおいてノベルティ等の配布を行うことで、バス利用を呼びかけ、路線収益の増加を図る。
(2) 広報紙等での利用啓発に向けたPR(福智町)
(3) こども50円バスを定期的の実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。
- ② 実施主体
(1) 西鉄バス筑豊、飯塚市
(2) 西鉄バス筑豊、福智町
(3) 西鉄バス筑豊
- ③ 定量的な効果目標
【収支率】令和5年度実績44.58%から収支改善1.0%以上を目標とする。
【輸送人員】令和5年度実績89,535人以上を維持する。
- ④ 実施に向けたスケジュール
(1)(2) 令和7年9月までに実施。
(3) 土曜・日曜・祝日 + 長期休暇期間(春休み、ゴールデンウィーク、夏休み、冬休み)
- ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由
飯塚市、小竹町、福智町を結ぶ本路線は、飯塚市潁田地区(旧潁田町)住民および飯塚市幸袋・目尾地区住民や小竹町、福智町の住民にとって、通勤、通学、買い物、通院等、住民の日常生活に必要な交通手段となっているため、今後とも幹線系統として維持する必要がある。
- 【参考】R6年度計画の取組状況
(1) 公共施設内でのポスター掲示やチラシの配架を行い、市内各種イベントにおいてノベルティ等の配布を行うことで、バス利用を呼びかけ、路線収益の増加を図る。
取組実施状況:B
【取組の結果】各種イベント会場等において、ノベルティの配布やバス利用の呼びかけを実施する(飯塚市)
【取組内容における課題】地域住民へバス利用を促していくためにも、継続して呼びかけていくことが重要である(飯塚市)
- (2) 広報紙等での利用啓発に向けたPR(福智町)
取組実施状況:C
【取組の結果】町広報紙やホームページ等で利用の呼びかけを予定。
【取組内容における課題】ノベルティグッズの配布や広報紙、ホームページ等での継続的な呼びかけを行う必要がある。
- (3) こども50円バスを定期的の実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。
取組実施状況:B
【取組の結果】スケジュール通り実施中
【取組内容における課題】継続的な呼びかけを行う必要がある。

2. 定量的な目標・効果 10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項			
計画記載 系統番号	25		
運行事業者名	西鉄バス筑豊(株)		
系統名	直方～鞍手～遠賀線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	直方	五反田・鞍手車庫	遠賀川駅
取組内容			
① 生産性向上に資する取組 (1) 沿線学校や企業への通勤・通学、病院への通院利用者に対して利用の呼びかけを行うことで、利用者の増を図る。 (2) 地域住民との意見交換や各種イベントなどで公共交通利用への意識醸成を図る。 (3) 出前講座における路線バスのPR (4) こども50円バスを定期的の実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。 ② 実施主体 (1) 西鉄バス筑豊、直方市、鞍手町、遠賀町 (2) 西鉄バス筑豊、直方市 (3) 西鉄バス筑豊 遠賀町 (4) 西鉄バス筑豊 ③ 定量的な効果目標 【収支率】令和5年度実績28.43%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年度実績83,603人以上を維持する。 ④ 実施に向けたスケジュール (1) 令和6年10月～令和7年9月で適宜実施。 (2)(3) 関係自治体のイベントスケジュールに合わせ調整を行い可能な限り実施。 (4) 土曜・日曜・祝日 + 長期休暇期間(春休み、ゴールデンウィーク、夏休み、冬休み) ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 直方市、鞍手町、遠賀町を結ぶ本路線は、JR筑豊本線直方駅とJR鹿児島本線遠賀川駅に接続し、沿線に他の鉄道駅がないことから、通学、通勤、通院、買い物などの利便性が高く、住民の日常生活に必要な交通手段となっているため、今後とも幹線系統として維持する必要がある。			
【参考】R6年度計画の取組状況 (1) 沿線学校や企業への通勤・通学、病院への通院利用者に対して利用の呼びかけを行うことで、利用者の増を図る。 取組実施状況：B、D 【取組の結果】・路線バス利用促進事業を市内全小学生を対象に小学校へ配布。 ・市が発行する介護予防冊子に路線バス情報を記載。 ・広報誌にて「公共交通の現状」など公共交通の現状や利用促進について啓蒙を行う。 【取組内容における課題】地域住民へバス利用を促していくためにも、継続して呼びかけていくことが重要である (2) 地域住民との意見交換や各種イベントなどで公共交通利用への意識醸成を図る。 取組実施状況：D 【取組の結果】地域住民との協議の場や高齢者が集う場にて公共交通の利用促進に向け啓蒙。 【取組内容における課題】地域住民へバス利用を促していくためにも、継続して呼びかけていくことが重要である (3) 出前講座における路線バスのPR 取組実施状況：C 【取組の結果】各所から要望に応じて出前講座を行う。 【取組内容における課題】地域住民へバス利用を促していくためにも、継続して呼びかけていくことが重要である (4) こども50円バスを定期的の実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。 取組実施状況：B 【取組の結果】スケジュール通り実施中。 【取組内容における課題】継続的な呼びかけを行う必要がある。			

【別紙】

2. 定量的な目標・効果
10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	26		
運行事業者名	西鉄バス筑豊(株)		
系統名	直方～鞍手～遠賀線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	遠賀川駅	新入	直方

取組内容

① 生産性向上に資する取組

- (1) 沿線学校や企業への通勤・通学、病院への通院利用者に対して利用の呼びかけを行うことで、利用者の増を図る。
- (2) 地域住民との意見交換や各種イベントなどで公共交通利用への意識醸成を図る。
- (3) 出前講座における路線バスのPR
- (4) こども50円バスを定期的の実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。

② 実施主体

- (1) 西鉄バス筑豊、直方市、鞍手町、遠賀町
- (2) 西鉄バス筑豊、直方市
- (3) 西鉄バス筑豊 遠賀町
- (4) 西鉄バス筑豊

③ 定量的な効果目標

【収支率】令和5年度実績22.95%から収支改善1.0%以上を目標とする。
【輸送人員】令和5年度実績41,603人以上を維持する。

④ 実施に向けたスケジュール

- (1) 令和5年10月～令和6年9月で適宜実施。
- (2) (3) 関係自治体のイベントスケジュールに合わせ調整を行い可能な限り実施。
- (4) 土曜・日曜・祝日 + 長期休暇期間(春休み、ゴールデンウィーク、夏休み、冬休み)

⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由

直方市、鞍手町、遠賀町を結ぶ本路線は、JR筑豊本線直方駅とJR鹿児島本線遠賀川駅に接続し、沿線に他の鉄道駅がないことから、通学、通勤、通院、買い物などの利便性が高く、住民の日常生活に必要不可欠な交通手段となっているため、幹線として維持することが妥当である。

なお、本系統は1日あたりの計画輸送量が15人に満たないが、上記のとおり、沿線住民の日常生活に必要不可欠な交通手段であることから、幹線系統として維持するため、国庫補助の交付が必要である。

【参考】R6年度計画の取組状況

- (1) 沿線学校や企業への通勤・通学、病院への通院利用者に対して利用の呼びかけを行うことで、利用者の増を図る。

取組実施状況：B、D

【取組の結果】・路線バス利用促進事業を市内全小学生を対象に小学校へ配布。

- ・市が発行する介護予防冊子に路線バス情報を記載。
- ・広報誌にて「公共交通の現状」など公共交通の現状や利用促進について啓蒙を行う。

【取組内容における課題】

- (2) 地域住民との意見交換や各種イベントなどで公共交通利用への意識醸成を図る。

取組実施状況：D

【取組の結果】地域住民との協議の場や高齢者が集う場にて公共交通の利用促進に向け啓発。

【取組内容における課題】

- (3) 出前講座における路線バスのPR

取組実施状況：C

【取組の結果】各所から要望に応じて出前講座を行う。

【取組内容における課題】

- (4) こども50円バスを定期的の実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。

取組実施状況：B

【取組の結果】スケジュール通り実施中。

【取組内容における課題】継続的な呼びかけを行う必要がある。

【別紙】

2. 定量的な目標・効果 10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項			
計画記載 系統番号	27		
運行事業者名	西鉄バス筑豊(株)		
系統名	飯塚～大隈線		
運行区間	(起点) 西鉄大隈	(経由地) 漆生	(終点) 飯塚

取組内容
① 生産性向上に資する取組 (1) 観光施設・沿線商店街等へのバス時刻表等の配架および市内各種イベントにおいてノベルティ等の配架を行うことで、バス利用を呼びかける。また、公共施設内でのポスター掲示やバス利用を呼び掛けるチラシの配架を行うとともに、地域住民に対して公共交通機関の利用促進を呼びかけるチラシ等を全戸配布する。 (2) 公共施設内でのポスター掲示やチラシの配架を行い、市内各種イベントにおいてノベルティ等の配布を行うことで、バス利用を呼びかけ、路線収益の増加を図る。 (3) 沿線の高校等(飯塚高校等)の生徒に対し、バス利用の呼びかけを行い、バス利用者の増を図る。 (4) 市バスとの乗り継ぎを強化、沿線住民の方々への利用促進の呼びかけを行う。 (5) 第二種運転免許取得にかかる費用の一部補助及び、乗務員募集の広報を行い、乗務員不足の解消を図る。 (6) こども50円バスを定期的の実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。 (7) 定期券購入補助制度を広報し通学時におけるバス利用の呼びかけを行い、バス利用者の増を図る。 ② 実施主体 (1) 西鉄バス筑豊、嘉麻市 (2) 飯塚市 (3) 嘉麻市、飯塚市 (4) 西鉄バス筑豊、嘉麻市 (5) 嘉麻市 (6) 西鉄バス筑豊 (7) 西鉄バス筑豊、嘉麻市 ③ 定量的な効果目標 【収支率】令和5年度実績42.60%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年度実績133,140人以上を維持する。 ④ 実施に向けたスケジュール (1)(2)(3) 令和7年9「月」までに実施。 (4)(5)(7) 令和6年10月～令和7年9月まで継続して実施。 (6) 土曜・日曜・祝日 + 長期休暇期間(春休み、ゴールデンウィーク、夏休み、冬休み) ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 飯塚市、嘉麻市を結ぶ本路線は、嘉麻市の中央部からJR及びバスターミナルに接続し、通勤・通学に多く利用されており、他に代替可能な鉄道等もないことから、住民の日常生活に必要な不可欠な交通手段となっているため、今後とも幹線系統として維持する必要がある。
【参考】R6年度計画の取組状況
(1)観光施設・沿線商店街等へのバス時刻表等の配架および市内各種イベントにおいてノベルティ等の配架を行うことで、バス利用を呼びかける。また、公共施設内でのポスター掲示やバス利用を呼び掛けるチラシの配架を行うとともに、地域住民に対して公共交通機関の利用促進を呼びかけるチラシ等を全戸配布する。 取組実施状況:A 【取組の結果】市バスの他に西鉄バスの時刻表も掲載した嘉麻市総合時刻表の施設等への配布や、西鉄バスとの乗継拠点を標記した路線図の掲示等を行い、バスの利用を呼び掛けた。また、全戸配布されている広報誌に公共交通機関の利用促進を呼びかける記事を掲載した。 【取組内容における課題】継続した呼びかけを行っていく必要がある。 (2)公共施設内でのポスター掲示やチラシの配架を行い、市内各種イベントにおいてノベルティ等の配布を行うことで、バス利用を呼びかけ、路線収益の増加を図る。 取組実施状況:B 【取組の結果】各種イベント会場等において、ノベルティの配布やバス利用の呼びかけを実施。(飯塚市) 【取組内容における課題】地域住民へバス利用を促していくためにも、継続して呼びかけていくことが重要である。(飯塚市) (3)沿線の高校等(飯塚高校等)の生徒に対し、バス利用の呼びかけを行い、バス利用者の増を図る。 取組実施状況:A、B 【取組の結果】各種イベント会場等において、ノベルティの配布やバス利用の呼びかけを実施。(飯塚市) 市バスの他に西鉄バスの時刻表も掲載した嘉麻市総合時刻表を学校へ配布した。また、高校就学前の市内中学3年生及び市外中学校を受験予定の市内小学6年生を対象に学校経由で嘉麻市通学等補助金のチラシを配布し公共交通の利用を呼びかけた。(嘉麻市) 【取組内容における課題】地域住民へバス利用を促していくためにも、継続して呼びかけていくことが重要である。(飯塚市) 継続した呼びかけ及び制度の継続(予算確保)が必要となる。(嘉麻市) 学校の始業時間や終業時間とダイヤの調整を行う必要がある。(嘉麻市) (4)市バスとの乗り継ぎを強化、沿線住民の方々への利用促進の呼びかけを行う。 取組実施状況:A 【取組の結果】民間バス等の公共交通と市バスの乗継拠点を記載した嘉麻市総合時刻表及び路線図を作成し、市内外への配布及びバス停への掲示を行い乗り継ぎ方法の周知を行った。 【取組内容における課題】継続した周知や利用の呼びかけを行っていく必要がある。 (5)第二種運転免許取得にかかる費用の一部補助及び、乗務員募集の広報を行い、乗務員不足の解消を図る。 取組実施状況:A 【取組の結果】第二種運転免許取得に係る補助事業を継続して実施した。また、ハローワーク飯塚で事業のチラシを設置してもらい、事業の周知に努めた。乗務員募集の広報についても定期的に広報嘉麻にて記事を掲載し、周知を行った。 【取組内容における課題】継続した事業の実施及び周知を行っていく必要がある。 (6)こども50円バスを定期的の実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。 取組実施状況:B 【取組の結果】スケジュール通り実施中。 【取組内容における課題】継続的な呼びかけを行う必要がある。 (7)定期券購入補助制度を広報し通学時におけるバス利用の呼びかけを行い、バス利用者の増を図る。 取組実施状況:A 【取組の結果】12月に市内中学3年生及び小学6年生に向けて学校を経由して事業のチラシの配布を行い事業の周知を行った。 【取組内容における課題】・継続した呼びかけを行っていく必要がある。 ・事業の継続に伴い予算の確保の必要がある。

【別紙】

2. 定量的な目標・効果 10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項			
計画記載 系統番号	28		
運行事業者名	西鉄バス筑豊(株)		
系統名	碓井線		
運行区間	(起点) 西鉄大隈	(経由地) 桂川駅	(終点) 飯塚

取組内容
① 生産性向上に資する取組 (1) 観光施設・沿線商店街等へのバス時刻表等の配架および市内各種イベントにおいてノベルティ等の配架を行うことで、バス利用を呼びかける。また、公共施設内でのポスター掲示やバス利用を呼び掛けるチラシの配架を行うとともに、地域住民に対して公共交通機関の利用促進を呼びかけるチラシを全戸配布する。 (2) 公共施設内でのポスター掲示やチラシの配架を行い、市内各種イベントにおいてノベルティ等の配布を行うことで、バス利用を呼びかけ、路線収益の増加を図る。 (3) 定期券購入補助制度を広報し通学時におけるバス利用の呼びかけを行い、バス利用者の増を図る。 (4) 市バスとの乗り継ぎを強化、沿線住民の方々への利用促進の呼びかけを行う。 (5) 第二種運転免許取得にかかる費用の一部補助及び、乗務員募集の広報を行い、乗務員不足の解消を図る。 (6) こども50円バスを定期的実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。 ② 実施主体 (1) 西鉄バス筑豊、嘉麻市、桂川町 (2) 飯塚市 (3) 嘉麻市、西鉄バス筑豊 (4) 西鉄バス筑豊、嘉麻市 (5) 嘉麻市 (6) 西鉄バス筑豊 ③ 定量的な効果目標 【収支率】令和5年度実績40.59%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年度実績40,757人以上を維持する。 ④ 実施に向けたスケジュール (1)(4) 令和6年3月までに実施。 (2) イベントスケジュール等に合わせ調整の上、可能な限り実施。 (3)(5) 令和5年10月～令和6年9月まで継続して実施。 (6) 土曜・日曜・祝日 + 長期休暇期間(春休み、ゴールデンウィーク、夏休み、冬休み) ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 飯塚市、嘉麻市、桂川町を結ぶ本路線は、JR桂川駅及び飯塚バスセンターに接続し、通勤・通学に多く利用されており、住民の日常生活に必要な不可欠な交通手段となっているため、今後とも幹線系統として維持する必要がある。 なお、本系統は1日あたりの計画輸送量が15人に満たないが、上記のとおり、沿線住民の日常生活に必要な不可欠な交通手段であることから、幹線系統として維持するため、国庫補助の交付が必要である。 【参考】R6年度計画の取組状況 (1) 観光施設・沿線商店街等へのバス時刻表等の配架および市内各種イベントにおいてノベルティ等の配架を行うことで、バス利用を呼びかける。また、公共施設内でのポスター掲示やバス利用を呼び掛けるチラシの配架を行うとともに、地域住民に対して公共交通機関の利用促進を呼びかけるチラシを全戸配布する。 取組実施状況:A 【取組の結果】市バスの他に西鉄バスの時刻表も掲載した嘉麻市総合時刻表の施設等への配布や、西鉄バスとの乗継拠点を標記した路線図の掲示等を行い、バスの利用を呼び掛けた。また、市民向けアンケート等の際に公共交通の利用を呼び掛けるチラシの同封等を行った。 【取組内容における課題】継続した呼びかけを行っていく必要がある。 (2) 公共施設内でのポスター掲示やチラシの配架を行い、市内各種イベントにおいてノベルティ等の配布を行うことで、バス利用を呼びかけ、路線収益の増加を図る。 取組実施状況:B 【取組の結果】各種イベント会場等において、ノベルティの配布やバス利用の呼びかけを実施する。(飯塚市) 【取組内容における課題】地域住民へバス利用を促していくためにも、継続して呼びかけていくことが重要である。(飯塚市) (3) 定期券購入補助制度を広報し通学時におけるバス利用の呼びかけを行い、バス利用者の増を図る。 取組実施状況:A 【取組の結果】市内中学3年生及び小学6年生に向けて学校を経由して事業のチラシの配布を行い事業の周知を行った。 【取組内容における課題】継続した通学における公共交通の利用の呼びかけ及び、制度の継続(予算確保)が必要となる。 (4) 市バスとの乗り継ぎを強化、沿線住民の方々への利用促進の呼びかけを行う。 取組実施状況:A 【取組の結果】民間バス等の公共交通と市バスの乗継拠点を記載した嘉麻市総合時刻表及び路線図を作成し、市内外への配布及びバス停への掲示を行い乗り継ぎ方法の周知を行った。 【取組内容における課題】継続した周知や利用の呼びかけを行っていく必要がある。 (5) 第二種運転免許取得にかかる費用の一部補助及び、乗務員募集の広報を行い、乗務員不足の解消を図る。 取組実施状況:A 【取組の結果】第二種運転免許取得に係る補助事業を継続して実施した。また、ハローワーク飯塚で事業のチラシを設置してもらい、事業の周知に努めた。乗務員募集の広報についても定期的に広報嘉麻にて記事を掲載し、周知を行った。 【取組内容における課題】継続した事業の実施及び周知を行っていく必要がある。 (6) こども50円バスを定期的実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。 取組実施状況:B 【取組の結果】スケジュール通り実施中。 【取組内容における課題】継続的な呼びかけを行う必要がある。

【別紙】

2. 定量的な目標・効果
10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	29		
運行事業者名	西鉄バス筑豊(株)		
系統名	上山田線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	山野社宅	上三緒	飯塚

取組内容

- ① 生産性向上に資する取組
- (1) 沿線の高校等(飯塚高校等)の生徒に対しバス利用の呼びかけを行い、バス利用者の増を図る。
 - (2) 市報・市HP等に利用促進の記事を掲載し、観光施設・沿線商店街等へのバス時刻表等の配架を行うことで、バス利用を呼びかける。また、地域住民に対して公共交通機関の利用促進を呼びかけるチラシ等を全戸配布する。
 - (3) 公共施設内でのポスター掲示やチラシの配架を行い、市内各種イベントにおいてノベルティ等の配布を行うことで、バス利用を呼びかけ、路線収益の増加を図る。
 - (4) 第二種運転免許取得に係る費用の一部補助及び、乗務員募集の広報を行い、乗務員不足の解消を図る。
 - (5) こども50円バスを定期的実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。
 - (6) 定期券購入補助制度を広報し通学時におけるバス利用の呼びかけを行い、バス利用者の増を図る。
- ② 実施主体
- (1) 飯塚市、嘉麻市
 - (2) 西鉄バス筑豊、嘉麻市
 - (3) 飯塚市
 - (4) 嘉麻市、西鉄バス筑豊
 - (5) 西鉄バス筑豊
 - (6) 西鉄バス筑豊、嘉麻市
- ③ 定量的な効果目標
- 【収支率】令和5年度実績48.89%から収支改善1.0%以上を目標とする。
- 【輸送人員】令和5年度実績56,408人以上を維持する。
- ④ 実施に向けたスケジュール
- (1)(3) 令和7年9月までに実施。
 - (2) 広報スケジュールを調整の上、可能な限り実施。
 - (4)(6) 令和6年10月～令和7年9月まで継続して実施。
 - (5) 土曜・日曜・祝日 + 長期休暇期間(春休み、ゴールデンウィーク、夏休み、冬休み)
- ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由
- 飯塚市・嘉麻市を結ぶ本路線は、嘉麻市の中央部からJR及びバスターミナルに接続しており、通勤・通学の利用が多く、他に代替可能な鉄道等もないことから、住民の日常生活に必要な不可欠な交通手段となっているため、今後とも幹線系統として維持する必要がある。

【参考】R6年度計画の取組状況

(1)沿線の高校等(飯塚高校等)の生徒に対しバス利用の呼びかけを行い、バス利用者の増を図る。

取組実施状況:A、B

【取組の結果】各種イベント会場等において、ノベルティの配布やバス利用の呼びかけを実施する。(飯塚市)

市バスの他に西鉄バスの時刻表も掲載した嘉麻市総合時刻表を学校へ配布した。また、高校就学前の市内中学3年生及び市外中学校を受験予定の市内小学6年生を対象に学校経由で嘉麻市通学等補助金のチラシを配布し公共交通の利用を呼びかけた。(嘉麻市)

【取組内容における課題】地域住民へバス利用を促していくためにも、継続して呼びかけていくことが重要である。(飯塚市)

継続した呼びかけ及び制度の継続(予算確保)が必要となる。(嘉麻市)

学校の始業時間や終業時間とダイヤの調整を行う必要がある。(嘉麻市)

(2)市報・市HP等に利用促進の記事を掲載し、観光施設・沿線商店街等へのバス時刻表等の配架を行うことで、バス利用を呼びかける。また、地域住民に対して公共交通機関の利用促進を呼びかけるチラシ等を全戸配布する。

取組実施状況:A

【取組の結果】市バスの他に西鉄バスの時刻表も掲載した嘉麻市総合時刻表の施設等への配布や、西鉄バスとの乗継拠点を標記した路線図の掲示等を行い、バスの利用を呼び掛けた。また、全戸配布されている広報誌に公共交通機関の利用促進を呼びかける記事を掲載した。

【取組内容における課題】継続した呼びかけを行っていく必要がある。

(3)公共施設内でのポスター掲示やチラシの配架を行い、市内各種イベントにおいてノベルティ等の配布を行うことで、バス利用を呼びかけ、路線収益の増加を図る。

取組実施状況:B

【取組の結果】各種イベント会場等において、ノベルティの配布やバス利用の呼びかけを実施する。(飯塚市)

【取組内容における課題】地域住民へバス利用を促していくためにも、継続して呼びかけていくことが重要である。(飯塚市)

(4)第二種運転免許取得に係る費用の一部補助及び、乗務員募集の広報を行い、乗務員不足の解消を図る。

取組実施状況:A

【取組の結果】第二種運転免許取得に係る補助事業を継続して実施した。また、ハローワーク飯塚で事業のチラシを設置してもらい、事業の周知に努めた。乗務員募集の広報についても定期的に広報嘉麻にて記事を掲載し、周知を行った。

【取組内容における課題】継続した事業の実施及び周知を行っていく必要がある。

(5)こども50円バスを定期的実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。

取組実施状況:B

【取組の結果】スケジュール通り実施中。

【取組内容における課題】継続的な呼びかけを行う必要がある。

(6)定期券購入補助制度を広報し通学時におけるバス利用の呼びかけを行い、バス利用者の増を図る。

取組実施状況:A

【取組の結果】12月に市内中学3年生及び小学6年生に向けて学校を経由して事業のチラシの配布を行い事業の周知を行った。

【取組内容における課題】継続した呼びかけを行っていく必要がある。

事業の継続に伴い予算の確保の必要がある。

【別紙】

2. 定量的な目標・効果
10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	30		
運行事業者名	西鉄バス筑豊(株)		
系統名	上山田線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	上山田	上三緒	飯塚

取組内容

- ① 生産性向上に資する取組
 (1) 沿線の高校等(飯塚高校等)の生徒に対しバス利用の呼びかけを行い、バス利用者の増を図る。
 (2) 市報・市HP等に利用促進の記事を掲載し、観光施設・沿線商店街等へのバス時刻表等の配架を行うことで、バス利用を呼びかける。また、地域住民に対して公共交通機関の利用促進を呼びかけるチラシ等を全戸配布する。
 (3) 公共施設内でのポスター掲示やチラシの配架を行い、市内各種イベントにおいてノベルティ等の配布を行うことで、バス利用を呼びかけ、路線収益の増加を図る。
 (4) 第二種運転免許取得に係る費用の一部補助及び、乗務員募集の広報を行い、乗務員不足の解消を図る。
 (5) こども50円バスを定期的実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。
 (6) 定期券購入補助制度を広報し通学時におけるバス利用の呼びかけを行い、バス利用者の増を図る。
- ② 実施主体
 (1) 飯塚市、嘉麻市
 (2) 西鉄バス筑豊、嘉麻市
 (3) 飯塚市
 (4) 嘉麻市、西鉄バス筑豊
 (5) 西鉄バス筑豊
 (6) 西鉄バス筑豊、嘉麻市
- ③ 定量的な効果目標
 【収支率】令和5年度実績62.91%から収支改善1.0%以上を目標とする。(主系統のみなら62.36%)
 【輸送人員】令和5年度実績108,098人以上を維持する。(主系統のみなら86,199人)
- ④ 実施に向けたスケジュール
 (1)(3) 令和7年3月までに実施。
 (2) 広報スケジュールを調整の上、可能な限り実施。
 (4)(6) 令和6年10月～令和7年9月まで継続して実施。
 (5) 土曜・日曜・祝日 + 長期休暇期間(春休み、ゴールデンウィーク、夏休み、冬休み)
- ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由
 飯塚市・嘉麻市を結ぶ本路線は、嘉麻市の中央部からJR及びバスターミナルに接続しており、通勤・通学の利用が多く、他に代替可能な鉄道等もないことから、住民の日常生活に必要な不可欠な交通手段となっているため、今後とも幹線系統として維持する必要がある。
- 【参考】R6年度計画の取組状況
 (1)沿線の高校等(飯塚高校等)の生徒に対しバス利用の呼びかけを行い、バス利用者の増を図る。
 取組実施状況:A、B
 【取組の結果】各種イベント会場等において、ノベルティの配布やバス利用の呼びかけを実施する。(飯塚市)
 市バスの他に西鉄バスの時刻表も掲載した嘉麻市総合時刻表を学校へ配布した。また、高校就学前の市内中学3年生及び市外中学校を受験予定の市内小学6年生を対象に学校経由で嘉麻市通学等補助金のチラシを配布し公共交通の利用を呼びかけた。(嘉麻市)
 【取組内容における課題】地域住民へバス利用を促していくためにも、継続して呼びかけていくことが重要である。(飯塚市)
 継続した呼びかけ及び制度の継続(予算確保)が必要となる。(嘉麻市)
 学校の始業時間と終業時間とダイヤの調整を行う必要がある。(嘉麻市)
 (2)市報・市HP等に利用促進の記事を掲載し、観光施設・沿線商店街等へのバス時刻表等の配架を行うことで、バス利用を呼びかける。また、地域住民に対して公共交通機関の利用促進を呼びかけるチラシ等を全戸配布する。
 取組実施状況:A
 【取組の結果】市バスの他に西鉄バスの時刻表も掲載した嘉麻市総合時刻表の施設等への配布や、西鉄バスとの乗継拠点を標記した路線図の掲示等を行い、バスの利用を呼び掛けた。また、全戸配布されている広報誌に公共交通機関の利用促進を呼びかける記事を掲載した。
 【取組内容における課題】継続した呼びかけを行っていく必要がある。
 (3)公共施設内でのポスター掲示やチラシの配架を行い、市内各種イベントにおいてノベルティ等の配布を行うことで、バス利用を呼びかけ、路線収益の増加を図る。
 取組実施状況:B
 【取組の結果】各種イベント会場等において、ノベルティの配布やバス利用の呼びかけを実施する。(飯塚市)
 【取組内容における課題】地域住民へバス利用を促していくためにも、継続して呼びかけていくことが重要である。(飯塚市)
 (4)第二種運転免許取得に係る費用の一部補助及び、乗務員募集の広報を行い、乗務員不足の解消を図る。
 取組実施状況:A
 【取組の結果】第二種運転免許取得に係る補助事業を継続して実施した。また、ハローワーク飯塚で事業のチラシを設置してもらい、事業の周知に努めた。乗務員募集の広報についても定期的に広報嘉麻にて記事を掲載し、周知を行った。
 【取組内容における課題】継続した事業の実施及び周知を行っていく必要がある。
 (5)こども50円バスを定期的実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。
 取組実施状況:B
 【取組の結果】スケジュール通り実施中。
 【取組内容における課題】継続的な呼びかけを行う必要がある。
 (6)定期券購入補助制度を広報し通学時におけるバス利用の呼びかけを行い、バス利用者の増を図る。
 取組実施状況:A
 【取組の結果】12月に市内中学3年生及び小学6年生に向けて学校を経由して事業のチラシの配布を行い事業の周知を行った。
 【取組内容における課題】継続した呼びかけを行っていく必要がある。
 事業の継続に伴い予算の確保の必要がある。

【別紙】

2. 定量的な目標・効果
10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	31		
運行事業者名	西鉄バス筑豊(株)		
系統名	添田線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	西鉄後藤寺	川崎	めんべい添田町工場

取組内容

- ① 生産性向上に資する取組
- (1) 当該路線沿線の病院や学校に向けて、利用促進チラシの配布を行うことで、利用者の増を図る。また、イベント開催時に、路線バス・コミュニティバスを含めた周知を行い、利用者の増を図る。
- (2) 沿線病院等への時刻表の配布と併せて、幹線と接続しているコミュニティバスの便について周知することでバス利用者の増を図る。
- (3) 市広報紙等での利用啓発に向けたPR(田川市)
- (4) こども50円バスを定期的の実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。
- ② 実施主体
- (1) 西鉄バス筑豊、田川市、川崎町、添田町
- (2) 西鉄バス筑豊、川崎町、添田町
- (3) 田川市
- (4) 西鉄バス筑豊
- ③ 定量的な効果目標
- 【収支率】R5実績収支率37.22%から収支改善1.0%以上を目標とする。
- 【輸送人員】R5実績66,456人を維持する。
- ④ 実施に向けたスケジュール
- (1)(2) 令和7年3月までに実施。
- (3) 関係自治体と広報紙掲載スケジュールを調整した上で、可能な限り実施。
- (4) 土曜・日曜・祝日 + 長期休暇期間(春休み、ゴールデンウィーク、夏休み、冬休み)
- ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由
- 当該路線については、田川市、川崎町、添田町の1市2町の地域間を結ぶ路線として運行しており、当該路線は添田町、川崎町方面から田川市方面への通勤、通学、買い物、通院など地域住民にとって非常に重要な生活路線であり、住民の日常生活に必要な不可欠な交通手段となっていることから、幹線として維持することが妥当である。
- 【参考】R6年度計画の取組状況
- (1) 当該路線沿線の病院や学校に向けて、利用促進チラシの配布を行うことで、利用者の増を図る。また、イベント開催時に、路線バス・コミュニティバスを含めた周知を行い、利用者の増を図る。
- 取組実施状況:A、B
- 【取組の結果】継続的に利用促進チラシの配布等をおこない、周知活動に努めている。(川崎町・添田町)
- 4、11月のウォーキングイベントで公共交通の利用促進をPRを行った。(田川市)
- 【取組内容における課題】継続した周知活動をおこなっていく必要がある。(川崎町・添田町)
- (2) 沿線病院等への行先マップやポケット時刻表の配布と併せて、幹線と接続しているコミュニティバスの便について周知することでバス利用者の増を図る。
- 取組実施状況:A、B
- 【取組の結果】沿線病院等に時刻表配布をおこない、周知活動に努めている。(川崎町・添田町)
- 高校入学説明会でコミュニティバスの利用促進PRを行った。
- 【取組内容における課題】継続した周知活動をおこなっていく必要がある。(川崎町・添田町)
- (3) 市広報紙等での利用啓発に向けたPR(田川市)
- 取組実施状況:A
- 【取組の結果】広報誌10月号で公共交通の利用促進をPRを行った。
- 【取組内容における課題】継続的な呼びかけを行う必要がある。
- (4) こども50円バスを定期的の実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。
- 取組実施状況:B
- 【取組の結果】スケジュール通り実施中。
- 【取組内容における課題】継続的な呼びかけを行う必要がある。

【別紙】

2. 定量的な目標・効果
10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	32		
運行事業者名	西鉄バス筑豊(株)		
系統名	飯塚市内線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	赤坂橋	有井	飯塚

取組内容
① 生産性向上に資する取組 (1) 公共施設内でのポスター掲示やチラシの配架を行い、市内各種イベントにおいてノベルティ等の配布を行うことで、バス利用を呼びかけ、路線収益の増加を図る。 (2) こども50円バスを定期的 to 実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。 ② 実施主体 (1) 西鉄バス筑豊、飯塚市 (2) 西鉄バス筑豊 ③ 定量的な効果目標 【収支率】令和5年度実績64.16%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年度実績54,114人以上を維持する。 ④ 実施に向けたスケジュール (1) 令和7年3月までに実施。 (2) 土曜・日曜・祝日 + 長期休暇期間(春休み、ゴールデンウィーク、夏休み、冬休み) ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 飯塚市中心部と飯塚市庄内地区(旧庄内町)を結ぶ本路線は、地域住民にとって通勤・通学・買い物・通院等、日常生活に必要不可欠な交通手段となっているため、今後とも幹線系統として維持する必要がある。 【参考】R6年度計画の取組状況 (1) 公共施設内でのポスター掲示やチラシの配架を行い、市内各種イベントにおいてノベルティ等の配布を行うことで、バス利用を呼びかけ、路線収益の増加を図る。 取組実施状況:B 【取組の結果】各種イベント会場等において、ノベルティの配布やバス利用の呼びかけを実施する。(飯塚市) 【取組内容における課題】地域住民へバス利用を促していくためにも、継続して呼びかけていくことが重要である。(飯塚市) (2) こども50円バスを定期的 to 実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。 取組実施状況:B 【取組の結果】スケジュール通り実施中。 【取組内容における課題】継続的な呼びかけを行う必要がある。

【別紙】

2. 定量的な目標・効果
10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	33		
運行事業者名	西鉄バス筑豊(株)		
系統名	飯塚市内線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	明治坑	飯塚	明星寺団地

取組内容
① 生産性向上に資する取組 (1) 公共施設内でのポスター掲示やチラシの配架を行い、市内各種イベントにおいてノベルティ等の配布を行うことで、バス利用を呼びかけ、路線収益の増加を図る。 (2) こども50円バスを定期的の実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。 ② 実施主体 (1) 西鉄バス筑豊、飯塚市 (2) 西鉄バス筑豊 ③ 定量的な効果目標 【収支率】令和5年度実績70.52%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年度実績158,553人以上を維持する。 ④ 実施に向けたスケジュール (1) 令和7年3月までに実施。 (2) 土曜・日曜・祝日 + 長期休暇期間(春休み、ゴールデンウィーク、夏休み、冬休み) ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 飯塚市中心部と飯塚市潁田地区(旧潁田町)を結ぶ本路線は、地域住民にとって通勤・通学・買い物・通院等、日常生活に必要不可欠な交通手段となっているため、今後とも幹線系統として維持する必要がある。 【参考】R6年度計画の取組状況 (1) 公共施設内でのポスター掲示やチラシの配架を行い、市内各種イベントにおいてノベルティ等の配布を行うことで、バス利用を呼びかけ、路線収益の増加を図る。 取組実施状況:B 【取組の結果】各種イベント会場等において、ノベルティの配布やバス利用の呼びかけを実施する。(飯塚市) 【取組内容における課題】地域住民へバス利用を促していくためにも、継続して呼びかけていくことが重要である。(飯塚市) (2) こども50円バスを定期的の実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。 取組実施状況:B 【取組の結果】スケジュール通り実施中。 【取組内容における課題】継続的な呼びかけを行う必要がある。

【別紙】

2. 定量的な目標・効果
10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	34		
運行事業者名	西鉄バス筑豊(株)		
系統名	直方～黒崎線		
運行区間	(起点) 直方	(経由地) 引野口	(終点) 黒崎

取組内容

- ① 生産性向上に資する取組
(1) 市民を対象とした出前講演等において、公共交通の維持の重要性等を説明し、公共交通の利用促進を図る。
(2) こども50円バスを定期的実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。
(3) 沿線学校の小学生などに対して利用の呼びかけを行うことで、利用者の増を図る。
(4) 地域住民との意見交換や各種イベントなどで公共交通利用への意識醸成を図る。
- ② 実施主体
(1) 西鉄バス筑豊、直方市、北九州市
(2) 西鉄バス筑豊
(3) 西鉄バス筑豊、直方市
(4) 西鉄バス筑豊、直方市
- ③ 定量的な効果目標
【収支率】令和5年度実績収支率66.10%から収支改善1.0%以上を目標とする。
【輸送人員】令和5年度実績159,506人を維持する。
- ④ 実施に向けたスケジュール
(1) (2) 令和6年10月～令和7年9月で適宜実施。
(3) 土曜・日曜・祝日 + 長期休暇期間(春休み、ゴールデンウィーク、夏休み、冬休み)
(3) 令和6年10月～令和7年9月で適宜実施。
(4) 関係自治体のイベントスケジュールに合わせ調整を行い可能な限り実施。
- ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由
当該路線については、直方市と北九州市の2市の地域間を結ぶ路線として運行しており、当該路線はJR筑豊本線直方駅とJR鹿児島本線黒崎駅を結ぶ幹線系統である。当該路線は朝、夕は通勤利用による直方駅、黒崎駅輸送、昼間は高齢者を中心とした買い物等利用の需要、また北九州方面から筑豊高校への学生利用もあり、必要不可欠な交通手段となっているため、幹線として維持することが妥当である。

【参考】R6年度計画の取組状況

- (1) 市民を対象とした出前講演等において、公共交通の維持の重要性等を説明し、公共交通の利用促進を図る。
取組実施状況：B、D
【取組の結果】
・市民を対象とした出前講演等において、公共交通の維持の重要性等を説明し、公共交通の利用促進を図った。(北九州市)
地域住民との協議の場や高齢者が集う場にて公共交通の利用促進に向け啓発を行う。(直方市)
【取組内容における課題】
・新型コロナウイルス感染症の影響による利用者減もあるが、継続的な呼びかけを行っていく必要がある。(北九州市)
(2) こども50円バスを定期的実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。
取組実施状況：B
【取組の結果】スケジュール通り実施中。
【取組内容における課題】継続的な呼びかけを行う必要がある。

【別紙】

2. 定量的な目標・効果

10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	35		
運行事業者名	西鉄バス筑豊(株)		
系統名	みやわか線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	宮田バス停	鞍手車庫	鞍手駅

取組内容

① 生産性向上に資する取組

(1) 時刻表や路線を掲載したバスガイドを、沿線の病院や商業施設等に配布し、路線バス利用者の増を目指す。

(2) 定期的を開催するイベントとの提携(公共交通利用によるイベントへの参加の奨励など)、イベントでのチラシの配布。利用促進に向けた広報での周知。

② 実施主体

(1) 西鉄バス筑豊、鞍手町

(2) 宮若市、鞍手町

③ 定量的な効果目標

【収支率】令和5年度実績収支率22.82%から収支改善1.0%以上を目標とする。

【輸送人員】令和5年度実績20,816人以上を維持する。

④ 実施に向けたスケジュール

(1) 令和6年9月までに実施

(2) 町で開催されるイベントのスケジュールに応じ、令和5年10月～令和6年9月の間に随時実施

⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由

宮若市、鞍手町を結ぶ本路線は、沿線住民のニーズに基づき鞍手町が運行するコミュニティバス路線であり、他に代替可能な路線や鉄道が存在せず、沿線住民にとって通学・通院等、日常生活に必要不可欠な交通手段となっており、今後とも幹線系統として維持する必要がある。

なお、本系統は1日あたりの計画輸送量が15人に満たないが、上記のとおり、沿線住民の日常生活に必要不可欠な交通手段であることから、幹線系統として維持するため、国庫補助の交付が必要である。

【参考】R6年度計画の取組状況

(1) 時刻表や路線を掲載したバスガイドを、沿線の病院や商業施設等に配布し、路線バス利用者の増を目指す。

取組実施状況：A

【取組の結果】「バスがいど」を沿線の病院や商業施設に配布済み。(鞍手町)

【取組内容における課題】新型コロナウイルス感染拡大による影響で利用者数は減少傾向にある。(鞍手町)

(2) 定期的を開催するイベントとの提携(公共交通利用によるイベントへの参加の奨励など)、イベントでのチラシの配布。利用促進に向けた広報での周知。

取組実施状況：A

【取組の結果】福岡県公共交通利用促進キャンペーン(9月1日～11月30日)及びバスの日(9月20日)に伴い、啓発物を庁舎内に掲示、又は高齢者支援窓口で配布することにより意識の醸成を図った。

【取組内容における課題】新型コロナウイルスの影響により、イベント等実施されていないため、啓発する機会がない。

【別紙】

2. 定量的な目標・効果
10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	36		
運行事業者名	西鉄バス宗像(株)		
系統名	津屋崎～鐘崎線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	東郷駅	波止場・福間海岸	光陽台六丁目

取組内容

① 生産性向上に資する取組
(1) 福津市が運行するコミュニティバス「ふくつミニバス」との乗継利用にかかる施策を継続し、公共交通の効率化を図る。
(2) 沿線学校である光陵高校、水産高校に対して利用の呼びかけを実施する。
(3) 路線上エリアの回覧板を使用し、バス利用年齢層の主力となる学生向け商品(ワイドエコルカード)および高齢者向け商品(グランドパス)のPRを行い、利用者増を図る。
(4) 大島島内の観光を促進するPR活動を実施することで、大島を訪れる観光客が当該路線を利用することに伴う利用者増を図る。
(5) こども50円バスの実施およびPRを行い、バスを知るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。
(6) 収支改善策として、令和6年1月20日に運賃改定や特殊定期券の見直しを実施。

② 実施主体

- (1) 西鉄バス宗像、福津市
- (2) 西鉄バス宗像、福津市
- (3) 西鉄バス宗像、宗像市
- (4) 西鉄バス宗像、宗像市
- (5) 西鉄バス宗像、宗像市
- (6) 西鉄バス宗像

③ 定量的な効果目標

【収支率】令和5年度実績61.4%から収支改善1.0%以上を目標とする。
【輸送人員】令和5年度実績94,720人以上を維持する。

④ 実施に向けたスケジュール

- (1) 「ふくつミニバス」との乗継利用施策の継続実施(令和7年9月まで)
- (2) 光陵高校、水産高校に対して利用の呼びかけの実施(令和7年3～4月)
- (3) 路線上エリアの回覧板を使用した学生向け商品(ワイドエコルカード)および高齢者向け商品(グランドパス)のPRの実施(令和7年9月まで)
- (4) 大島島内の観光を促進するPR活動を実施(令和7年9月まで)
- (5) すべての土日祝と長期休暇に合わせて実施
- (6) 令和6年1月20日に実施済

⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由

本路線は、福津市と宗像市をまたいで運行しており、福津市内の勝浦小学校への校区外通学児童の通学や、福津市域から旧玄海地域を経由して宗像市東郷地区へとつながっている。JR東郷駅とJR福間駅、大島渡船に接続しており、住民の日常生活に必要な不可欠な交通手段となっているため、今後とも幹線系統として維持する必要がある。

【参考】R6年度計画の取組状況

① 生産性向上に資する取組

(1) 福津市が運行するコミュニティバス「ふくつミニバス」との乗継利用にかかる施策を継続し、公共交通の効率化を図る。

取組実施状況:A

乗り継ぎ切符を作成し、利用者増に取り組んでいる。

(2) 沿線学校である光陵高校、水産高校に対して利用の呼びかけを実施する。

取組実施状況:A

令和6年3月に訪問し、定期券のPRを実施した。

(3) 路線上エリアの回覧板を使用し、バス利用年齢層の主力となる学生向け商品(ワイドエコルカード)および高齢者向け商品(グランドパス)のPRを行い、利用者増を図る。

取組実施状況:C

(4) 大島島内の観光を促進するPR活動を実施することで、大島を訪れる観光客が当該路線を利用することに伴う利用者増を図る。

取組実施状況:C

(5) こども50円バスの実施およびPRを行い、バスを知るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。

取組実施状況:A

冬休み期間(令和5年12月下旬～令和6年1月上旬の17日間)に実施。

(参考)福岡都市圏で3,617千円の増収効果。

【別紙】

2. 定量的な目標・効果
10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	37		
運行事業者名	西鉄バス宗像(株)		
系統名	津屋崎～鐘崎線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	東郷駅	宗像大社	神湊波止場

取組内容

- ① 生産性向上に資する取組
(1) 大島島内の観光を促進するPR活動を実施することで、大島を訪れる観光客が当該路線を利用することに伴う利用者増を図る。
(2) 路線エリアの回覧板を使用し、バス利用年齢層の主力となる学生向け商品(ワイドエコルカード)及び高齢者向け商品(グランドパス)のPRを行い、利用者増を図る。
(3) こども50円バスの実施およびPRを行い、バスを知るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。
(4) 収支改善策として、令和6年1月20日に運賃改定や特殊定期券の見直しを実施。
- ② 実施主体
(1) 西鉄バス宗像、宗像市
(2) 西鉄バス宗像、宗像市
(3) 西鉄バス宗像、宗像市
(4) 西鉄バス宗像
- ③ 定量的な効果目標
【収支率】令和5年度実績69.03%から収支改善1.0%以上を目標とする。
【輸送人員】令和5年度実績66,533人以上を維持する。
- ④ 実施に向けたスケジュール
(1) 大島島内の観光を促進するPR活動を実施(令和7年9月まで)
(2) 路線エリアの回覧板を使用した学生向け商品(ワイドエコルカード)および高齢者向け商品(グランドパス)のPRの実施(令和7年9月まで)
(3) すべての土日祝と長期休暇に合わせて実施
(4) 令和6年1月20日に実施済
- ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由
本路線は、宗像市の旧玄海地区(神湊)と旧宗像市域の間を運行し、JR東郷駅を起終点とし大島渡船と接続している。沿線住民の日常生活に必要不可欠な交通手段となっているため、今後とも幹線系統として維持する必要がある。
- 【参考】R6年度計画の取組状況
(1) 大島島内の観光を促進するPR活動を実施することで、大島を訪れる観光客が当該路線を利用することに伴う利用者増を図る。
取組実施状況:C

(2) 路線エリアの回覧板を使用し、バス利用年齢層の主力となる学生向け商品(ワイドエコルカード)及び高齢者向け商品(グランドパス)のPRを行い、利用者増を図る。
取組実施状況:C

(3) こども50円バスの実施およびPRを行い、バスを知るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる
取組実施状況:A
冬休み期間(令和5年12月下旬～令和6年1月上旬の17日間)に実施。
(参考)福岡都市圏で3,617千円の増収効果。

【別紙】

2. 定量的な目標・効果
10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	38		
運行事業者名	西鉄バス宗像(株)		
系統名	津屋崎～鐘崎線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	鐘崎車庫	宗像コモン・東郷	東郷駅

取組内容			
① 生産性向上に資する取組 (1) 路線上の地域の回覧板等を活用し、バス利用年齢層の主力となる学生向け商品(ワイドエコルカード)及び高齢者向け商品(グランドパス)のPRを行い、利用者増を図る。 (2) 地域イベントで時刻表等を配布し、バス利用を促進するPR活動を行い、利用者増を図る。 (3) こども50円バスを実施し、バスを知るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。 (4) 収支改善策として、令和6年1月20日に運賃改定や特殊定期券の見直しを実施。			
② 実施主体 (1) 西鉄バス宗像、宗像市 (2) 西鉄バス宗像、宗像市 (3) 西鉄バス宗像、宗像市 (4) 西鉄バス宗像			
③ 定量的な効果目標 【収支率】令和5年度実績45.52%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年度実績103,734人以上を維持する。			
④ 実施に向けたスケジュール (1) 路線エリアの回覧板を使用した学生向け商品(ワイドエコルカード)および高齢者向け商品(グランドパス)のPRの実施(令和7年9月まで) (2) 地域イベントで時刻表等を配布(令和7年9月まで) (3) すべての土日祝と長期休暇に合わせて実施 (4) 令和6年1月20日に実施済			
⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 本路線は、宗像市の旧玄海町鐘崎地区と旧宗像市域の間を運行し、旧玄海地域とJR東郷駅を接続しており、沿線住民の日常生活に必要な交通手段となっているため、今後とも幹線系統として維持する必要がある。			
【参考】R6年度計画の取組状況 (1) 路線上の地域の回覧板等を活用し、バス利用年齢層の主力となる学生向け商品(ワイドエコルカード)及び高齢者向け商品(グランドパス)のPRを行い、利用者増を図る。 取組実施状況:C			
(2) 地域イベントで時刻表等を配布し、バス利用を促進するPR活動を行い、利用者増を図る。 取組実施状況:A 令和5年11月26日に開催された「むなかた地域公共交通シンポジウム」にてブースを設け、PR活動を行った。			
(3) こども50円バスの実施およびPRを行い、バスを知るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。 取組実施状況:A 冬休み期間(令和5年12月下旬～令和6年1月上旬の17日間)に実施。 (参考)福岡都市圏で3,617千円の増収効果。			

【別紙】

2. 定量的な目標・効果 10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項			
計画記載 系統番号	39		
運行事業者名	西鉄バス宗像(株)		
系統名	津屋崎～鐘崎線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	鐘崎車庫	宗像コモン・ネオポリス	赤間営業所
取組内容			
① 生産性向上に資する取組 (1) 路線上の地域の回覧板等を活用し、バス利用年齢層の主力となる学生向け商品(ワイドエコルカード)及び高齢者向け商品(グランドパス)のPRを行い、利用者増を図る。 (2) 地域イベントで時刻表等を配布し、バス利用を促進するPR活動を行い、利用者増を図る。 (3) こども50円バスの実施およびPRを行い、バスを知るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。 (4) 収支改善策として、令和6年1月20日に運賃改定や特殊定期券の見直しを実施。 ② 実施主体 (1) 西鉄バス宗像、宗像市 (2) 西鉄バス宗像、宗像市 (3) 西鉄バス宗像、宗像市 (4) 西鉄バス宗像 ③ 定量的な効果目標 【収支率】令和5年度実績収支率42.8%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年度実績105,690人以上を維持する。 ④ 実施に向けたスケジュール (1) 路線エリアの回覧板を使用した学生向け商品(ワイドエコルカード)および高齢者向け商品(グランドパス)のPRの実施(令和7年9月まで) (2) 地域イベントで時刻表等を配布(令和7年9月まで) (3) すべての土日祝と長期休暇に合わせて実施 (4) 令和6年1月20日に実施済 ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 本路線は、宗像市の旧玄海町鐘崎地区と旧宗像市域の間を運行し、旧玄海地域とJR赤間駅を接続しており、沿線住民の日常生活に必要な交通手段となっているため、今後とも幹線系統として維持する必要がある。			
【参考】R6年度計画の取組状況 (1) 路線上の地域の回覧板等を活用し、バス利用年齢層の主力となる学生向け商品(ワイドエコルカード)及び高齢者向け商品(グランドパス)のPRを行い、利用者増を図る。 取組実施状況:C (2) 地域イベントで時刻表等を配布し、バス利用を促進するPR活動を行い、利用者増を図る。 取組実施状況:A 令和5年11月26日に開催された「むなかた地域公共交通シンポジウム」にてブースを設け、PR活動を行った。 (3) こども50円バスの実施およびPRを行い、バスを知るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。 取組実施状況:A 冬休み期間(令和5年12月下旬～令和6年1月上旬の17日間)に実施。 (参考)福岡都市圏で3,617千円の増収効果。			

【別紙】

2. 定量的な目標・効果
10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	40		
運行事業者名	西鉄バス大牟田(株)		
系統名	上官線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	西鉄大牟田営業所	大牟田市立病院・上町	庄山

取組内容

① 生産性向上に資する取組

(1) 大牟田市と連携し、バス利用促進のイベント(バス教室・観光施設でのバス運転士体験会の実施など)を実施する。バス利用に関する広報・周知活動について、HPへの掲載、公共施設でのPR物配布等により利用促進を図る。
(2) 運賃改定を実施し、収支改善に努める。
(3) バス利用促進のイベント施策を実施する。

② 実施主体

(1)(2) 西鉄バス大牟田、大牟田市
(3) 大牟田市地域公共交通活性化協議会

③ 定量的な効果目標

【収支率】令和5年実績収支率30.4%から収支改善1.0%以上を目標とする。
【輸送人員】令和5年度実績28,861人以上を維持する。

④ 実施に向けたスケジュール

(1) 大牟田市内の小学校などと日程調整の上、実施。
(2) 調整の上認可後に実施。
(3) イベント開催に合わせて適宜実施

⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由

本系統は、大牟田市と熊本県荒尾市の2市を跨いで運行し、JR大牟田駅、JR新大牟田駅、西鉄大牟田駅と接続。庄山バス停では南関町の乗合タクシーが接続しており、沿線住民の日常生活に必要な交通手段となっているため。

なお、本系統は1日あたりの計画輸送量が15人に満たないが、上記のとおり、沿線住民の日常生活に必要な不可欠な交通手段であることから、幹線系統として維持するため、国庫補助の交付が必要である。

【参考】R6年度計画の取組状況

(1) 大牟田市と連携し、バス利用促進のイベント(バス教室・観光施設でのバス運転士体験会の実施など)を実施する。バス利用に関する広報・周知活動について、HP、広報の活用及び公共施設でのPR物配布等により一層の利用促進を図る。

取組実施状況：A

【取組の結果】

① 大牟田市内の小学校でバス教室を2023年10月・11月度に5校実施した。
② 2024年3月16日「おおむた産業フェスタ」に参加した。ノベルティ配布・運転士体験を実施した。

【取組内容における課題】

イベント時のスタッフ確保

天候(熱中症の防止など)に配慮したバス教室の実施

(2) 2022年12月より発売開始した「おおむた1日乗り放題バスきっぷ」を発売継続し、バス利用の促進に繋げる。

取組実施状況：A

【取組の結果】

発売開始後累計995枚を発売。直近平均(2023年10月～2024年3月)で1か月あたり60枚を発売している。
※2024年12月末までの発売を予定。

【取組内容における課題】

乗務員カウンターにより路線単位では利用者を集計できるが、細かなバス停間の移動が把握できないこと。

(3) 市内を発着する公共交通の利用促進を目的に、継続的な利用と潜在的利用者へアプローチを図るため、大牟田市公共交通デジタルスタンプラリーを実施する。

取組実施状況：A

【取組の結果】

2023年12月1日から2024年1月31日までの2か月間、大牟田市や大牟田市に関わる交通事業者と連携し、公共交通デジタルスタンプラリーを実施した。

【取組内容における課題】

アンケート結果がどのような形で活用できるかの検討。

【別紙】

2. 定量的な目標・効果 10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項			
計画記載 系統番号	41		
運行事業者名	西鉄バス大牟田(株)		
系統名	吉野線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	西鉄大牟田営業所	大牟田市立病院・田隈	南関町役場
取組内容			
① 生産性向上に資する取組 (1) 大牟田市と連携し、バス利用促進のイベント(バス教室・観光施設でのバス運転士体験会の実施など)を実施する。バス利用に関する広報・周知活動について、HPへの掲載、公共施設でのPR物配布等により利用促進を図る。 (2) 運賃改定を実施し、収支改善に努める。 (3) バス利用促進のイベント施策を実施する。 (4) JR九州や大牟田市と連携し、新大牟田駅で新幹線との接続を向上することで、利用者増を図る。			
② 実施主体 (1)(2)(4) 西鉄バス大牟田、大牟田市 (3) 大牟田市地域公共交通活性化協議会			
③ 定量的な効果目標 【収支率】令和5年度実績37.5%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年度実績112,830人以上を維持する。			
④ 実施に向けたスケジュール (1) 大牟田市内の小学校などと日程調整の上、実施。 (2) 調整の上認可後に実施。 (3) イベント開催に合わせて適宜実施 (4) 九州新幹線ダイヤ改正実施に合わせて継続的な実施			
⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 本路線については、大牟田市と熊本県南関町の2市町を跨いで運行し、JR大牟田駅、西鉄大牟田駅と接続。また、南関町内設置のバス停では南関町の乗合タクシーが接続しており、沿線住民の日常生活に必要な交通手段となっているため。			
【参考】R6年度計画の取組状況 (1) 大牟田市と連携し、バス利用促進のイベント(バス教室・観光施設でのバス運転士体験会の実施など)を実施する。バス利用に関する広報・周知活動について、HP、広報の活用及び公共施設でのPR物配布等により一層の利用促進を図る。 取組実施状況:A 【取組の結果】 ① 大牟田市市内の小学校でバス教室を2023年10月・11月度に5校実施した。 ② 2024年3月16日「おおむた産業フェスタ」に参加した。ノベルティ配布・運転士体験を実施した。 【取組内容における課題】 イベント時のスタッフ確保 天候(熱中症の防止など)に配慮したバス教室の実施 (2) 2022年12月より発売開始した「おおむた1日乗り放題バスきっぷ」を発売継続し、バス利用の促進に繋げる。 取組実施状況:A 【取組の結果】 発売開始後累計995枚を発売。直近平均(2023年10月～2024年3月)で1か月あたり60枚を発売している。 ※2024年12月末までの発売を予定。 【取組内容における課題】 乗務員カウンターにより路線単位では利用者を集計できるが、細かなバス停間の移動が把握できないこと。 (3) 市内を発着する公共交通の利用促進を目的に、継続的な利用と潜在的利用者へアプローチを図るため、大牟田市公共交通デジタルスタンプラリーを実施する。 取組実施状況:A 【取組の結果】 2023年12月1日から2024年1月31日までの2か月間、大牟田市や大牟田市に関わる交通事業者と連携し、公共交通デジタルスタンプラリーを実施した。 【取組内容における課題】 アンケート結果がどのような形で活用できるかの検討。 (4) JR九州や大牟田市と連携し、新大牟田駅での新幹線への接続を向上させることで、利用者増を図る。 取組実施状況:A 【取組の結果】 九州新幹線のダイヤ改正に合わせて継続して接続時間を調整する。 2023年11月1日より57-2番を吉野線循環系統を新大牟田駅に乗り入れ開始しアクセスの改善を図った。 【取組内容における課題】 バスから新幹線、新幹線からバスの最適な乗継時間の把握。利用者への周知。			

【別紙】

2. 定量的な目標・効果
10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	42		
運行事業者名	西鉄バス大牟田(株)		
系統名	大牟田市内線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	荒尾駅	右京町	久福木団地

取組内容

① 生産性向上に資する取組

(1) 大牟田市と連携し、バス利用促進のイベント(バス教室・観光施設でのバス運転士体験会の実施など)を実施する。バス利用に関する広報・周知活動について、HPへの掲載、公共施設でのPR物配布等により利用促進を図る。
(2) 運賃改定を実施し、収支改善に努める。
(3) バス利用促進のイベント施策を実施する。

② 実施主体

(1)(2) 西鉄バス大牟田、大牟田市
(3) 大牟田市地域公共交通活性化協議会

③ 定量的な効果目標

【収支率】令和5年度実績収支率65.2%から収支改善1.0%以上を目標とする。
【輸送人員】令和5年度実績117,169人以上を維持する。

④ 実施に向けたスケジュール

(1) 大牟田市内の小学校などと日程調整の上、実施。
(2) 調整の上認可後に実施。
(3) イベント開催に合わせて適宜実施

⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由

本系統については、大牟田市と熊本県荒尾市の2市を跨いで運行し、JR大牟田駅、西鉄大牟田駅、JR荒尾駅と接続しており、沿線住民の日常生活に必要不可欠な交通手段となっているため。

【参考】R6年度計画の取組状況

(1) 大牟田市と連携し、バス利用促進のイベント(バス教室・観光施設でのバス運転士体験会の実施など)を実施する。バス利用に関する広報・周知活動について、HP、広報の活用及び公共施設でのPR物配布等により一層の利用促進を図る。

取組実施状況:A

【取組の結果】

① 大牟田市内の小学校でバス教室を2023年10月・11月度に5校実施した。
② 2023年11月12日 グリーンランド(熊本県荒尾市)でのイベントに参加しノベルティ配布・運転士体験を実施した。
③ 2024年3月16日「おおむた産業フェスタ」に参加した。ノベルティ配布・運転士体験を実施した。

【取組内容における課題】

イベント時のスタッフ確保
天候(熱中症の防止など)に配慮したバス教室の実施

(2) 2022年12月より発売開始した「おおむた1日乗り放題バスきっぷ」を発売継続し、バス利用の促進に繋げる。

取組実施状況:A

【取組の結果】

発売開始後累計995枚を発売。直近平均(2023年10月～2024年3月)で1か月あたり60枚を発売している。
※2024年12月末までの発売を予定。

【取組内容における課題】

乗務員カウンターにより路線単位では利用者を集計できるが、細かなバス停間の移動が把握できないこと。

(3) 市内を発着する公共交通の利用促進を目的に、継続的な利用と潜在的利用者へアプローチを図るため、大牟田市公共交通デジタルスタンプラリーを実施する。

取組実施状況:A

【取組の結果】

2023年12月1日から2024年1月31日までの2か月間、大牟田市や大牟田市に関わる交通事業者と連携し、公共交通デジタルスタンプラリーを実施した。

【取組内容における課題】

アンケート結果がどのような形で活用できるかの検討。

【別紙】

2. 定量的な目標・効果
10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	43		
運行事業者名	西鉄バス大牟田(株)		
系統名	大牟田市内線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	荒尾駅	天領橋・高泉団地	三池中町

取組内容

① 生産性向上に資する取組

(1) 大牟田市と連携し、バス利用促進のイベント(バス教室・観光施設でのバス運転士体験会の実施など)を実施する。バス利用に関する広報・周知活動について、HPへの掲載、公共施設でのPR物配布等により利用促進を図る。

(2) 運賃改定を実施し、収支改善に努める。

(3) バス利用促進のイベント施策を実施する。

② 実施主体

(1)(2) 西鉄バス大牟田、大牟田市

(3) 大牟田市地域公共交通活性化協議会

③ 定量的な効果目標

【収支率】令和5年度実績収支率68.3%から収支改善1.0%以上を目標とする。

【輸送人員】令和5年度実績116,207人以上を維持する。

④ 実施に向けたスケジュール

(1) 大牟田市内の小学校などと日程調整の上、実施。

(2) 調整の上認可後に実施。

(3) イベント開催に合わせて適宜実施

⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由

本系統については、大牟田市と熊本県荒尾市の2市を跨いで運行し、JR大牟田駅、西鉄大牟田駅、JR荒尾駅と接続しており、沿線住民の日常生活に必要な不可欠な交通手段となっているため。

【参考】R6年度計画の取組状況

(1) 大牟田市と連携し、バス利用促進のイベント(バス教室・観光施設でのバス運転士体験会の実施など)を実施する。バス利用に関する広報・周知活動について、HP、広報の活用及び公共施設でのPR物配布等により一層の利用促進を図る。

取組実施状況: A

【取組の結果】

① 大牟田市内の小学校でバス教室を2023年10月・11月度に5校実施した。

② 2023年11月12日 グリーンランド(熊本県荒尾市)でのイベントに参加しノベルティ配布・運転士体験を実施した。

③ 2024年3月16日「おおむた産業フェスタ」に参加した。ノベルティ配布・運転士体験を実施した。

【取組内容における課題】

イベント時のスタッフ確保

天候(熱中症の防止など)に配慮したバス教室の実施

(2) 2022年12月より発売開始した「おおむた1日乗り放題バスきっぷ」を発売継続し、バス利用の促進に繋げる。

取組実施状況: A

【取組の結果】

発売開始後累計995枚を発売。直近平均(2023年10月～2024年3月)で1か月あたり60枚を発売している。
※2024年12月末までの発売を予定。

【取組内容における課題】

乗務員カウンターにより路線単位では利用者を集計できるが、細かなバス停間の移動が把握できないこと。

(3) 市内を発着する公共交通の利用促進を目的に、継続的な利用と潜在的利用者へアプローチを図るため、大牟田市公共交通デジタルスタンプラリーを実施する。

取組実施状況: A

【取組の結果】

2023年12月1日から2024年1月31日までの2か月間、大牟田市や大牟田市に関わる交通事業者と連携し、公共交通デジタルスタンプラリーを実施した。

【取組内容における課題】

アンケート結果がどのような形で活用できるかの検討。

【別紙】

2. 定量的な目標・効果			
10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項			

計画記載 系統番号	44		
運行事業者名	西鉄バス北九州株式会社		
系統名	中間線		
運行区間	(起点) 香月営業所	(経由地) 鳥森・JR中間駅	(終点) 筑鉄中間

取組内容
① 生産性向上に資する取組 (1) 市民を対象とした出前講演等において、モビリティマネジメントを実施することにより公共交通の利用促進を図る。 具体的には、沿線地域での会合や通学・通勤利用者に対して利用の呼びかけを行う。また、地域イベントや学校においてバスの乗り方講習会等の開催を検討。バスのポケット時刻表等を窓口に配架し、来庁者に中間線の利便性の良さを周知する。 (2) 中間市ホームページの公共交通カテゴリに北九州市のホームページの香月営業所周辺で開催されるイベント情報をリンクさせ、バスを利用して来場するよう引き続き利用促進を行う。高齢者路線バス定期購入費助成事業と路線バスおでかけマップを作成し、新規利用者増加に努める。 (3) 幹線系統および接続するコミュニティバスの運行等について、分析・見直しを実施することに加え、高齢者運転免許証自主返納支援事業を更に推進するため周知PRを行う。 (4) バス車内のビジョンで接続する鉄道駅(筑鉄通谷駅、JR中間駅)の時刻表を掲示し、引き続きサービス向上を図る。 (5) 筑鉄通谷駅の定期発売所のPRを強化し、引き続き既存ユーザーの利便性向上、新規ユーザーの獲得に繋げる。 ② 実施主体 (1) 西鉄バス北九州、北九州市、中間市 (2) 中間市 (3) 西鉄バス北九州、中間市 (4)(5) 西鉄バス北九州 ③ 定量的な効果目標【決算値確定後、西鉄記入】 【収支率】令和5年度実績33.01%から収支改善1%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年度実績38,198人以上を維持する。 ④ 実施に向けたスケジュール (1) 路線バス沿線住民へのモビリティマネジメントの実施(令和7年9月まで) (2) 中間市HPに北九州市HPの香月営業所周辺で開催されるイベント情報をリンクさせ、バスを利用し来場するよう利用促進を行う。(令和7年9月まで) 令和6年6月沿線自治会に周知させ、マップ配布。7月から翌年2月末まで購入補助実施(予算に限りがあるため年度途中で申請の受付を終了する場合あり) (3) 幹線系統に接続するコミュニティバスの運行等に係る分析・見直し及び高齢者運転免許証自主返納支援事業の周知PR。(令和7年9月まで) (4) バス車内のビジョンで接続する鉄道駅の時刻表の掲示(令和7年9月まで) (5) ホームページ・SNS等を活用し、PR強化を行う。(令和7年9月まで) ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 本路線は、中間市及び北九州市八幡西区香月地区を経由し、JR中間駅及び筑豊電気鉄道筑豊中間駅に接続しており、沿線住民の通勤・通学・買い物・通院等の日常生活に必要な交通手段となっている。また、中間市における沿線フィーダー系統の幹線であることから、今後とも幹線系統として維持する必要がある。 なお、本系統は1日あたりの計画輸送量が15人に満たないが、上記のとおり、沿線住民の日常生活に必要な交通手段であることから、幹線系統として維持するため、国庫補助の交付が必要である。
【参考】R6年度計画の取組状況
(1) 市民を対象とした出前講演等において、モビリティマネジメントを実施することにより公共交通の利用促進を図る。 具体的には、沿線地域での会合や通学・通勤利用者に対して利用の呼びかけを行う。また、地域イベントにおいてバスの乗り方講習会等の開催を検討。ポケット時刻表等を窓口に配架し、来庁者に中間線の利便性の良さを周知する。 取組実施状況:B実施中 【取組の結果】 ・バス路線図を作成し、公共交通利用の促進を行った。(西鉄バス北九州、北九州市) ・新入生向けの定期券説明会の実施(西鉄バス北九州) ・長期休暇期間に実施していたこども50円バスを土日祝日にも拡大適用し、子供たちへのバス利用促進を行った。(西鉄バス北九州) 【取組内容における課題】 ・説明会を実施できる回数に限りがあるため、取組範囲を広げる必要がある(西鉄バス北九州) (2) 中間市ホームページの公共交通カテゴリに北九州市のホームページの香月営業所周辺で開催されるイベント情報をリンクさせ、バスを利用して来場するよう継続して利用促進を行う。 取組実施状況:B実施中 【取組の結果】引き続き中間市ホームページで沿線地域のイベント情報を掲載し、バスの利用促進を図る。 【取組内容における課題】コロナ禍によりイベントの自粛等が懸念される。 (3) 幹線系統および接続するコミュニティバスの運行等について、分析・見直しを実施することに加え、高齢者運転免許証自主返納支援事業を推進するため周知PRを行う。 取組実施状況:B実施中 【取組の結果】 ・グランドバス75を新設し、高齢者免許自主返納事業を推進した。 【取組内容における課題】 ・支援事業の認知が広まりきれていないため、継続したPRを行う。 (4) バス車内のビジョンで接続する鉄道駅(筑鉄通谷駅、JR中間駅)の時刻表を掲示し、引き続きサービス向上を図る。 取組実施状況:B実施中 【取組の結果】バス車内の運賃モニターに、筑鉄中間駅・JR中間駅の時刻表を掲示。利用者からの評価は高い。 【取組内容における課題】 ・緊急事態宣言発令等に伴いダイヤが変更になる際は、時刻表の表示が出来ない場合がある。(カレンダー設定に基づく為) (5) 筑鉄通谷駅の定期発売所のPRを強化し、引き続き既存ユーザーの利便性向上、新規ユーザーの獲得に繋げる。 取組実施状況:B実施中 【取組の結果】バス車内の音声案内を活用して発売所のPRを行っている。 【取組内容における課題】SNS等を活用してPRを行い、認知度をさらに高める必要あり。

【別紙】

2. 定量的な目標・効果
9. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	45		
運行事業者名	西鉄バス北九州株式会社		
系統名	行橋～下曽根線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	行橋営業所		九州労災病院

取組内容
① 生産性向上に資する取組 (1) 行橋駅・苅田駅・朽網駅・下曽根駅での利用促進に関する取り組みの強化。(各駅接続・北九州空港・九州労災病院へのアクセス路線としてのPR) (2) バス車内のビジョンで接続する鉄道駅(JR下曽根駅、JR朽網駅、JR苅田駅、JR行橋駅)の時刻表を掲示し、引き続きサービスの向上を図る。 (3) 南朽網バス停を北九州空港へのアクセスバス停とし、利便性向上を図る。 (4) 市民を対象とした出前講演等において、公共交通の維持の重要性等を説明し、公共交通の利用促進を図る。 ② 実施主体 (1) 西鉄バス北九州、北九州市、苅田町、行橋市 (2) 西鉄バス北九州 (3) 西鉄バス北九州、北九州市、苅田町 (4) 北九州市 ③ 定量的な効果目標(決算値確定後、西鉄記入) 【収支率】令和5年度実績27.54%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年度実績72,463人以上を維持する。 ④ 実施に向けたスケジュール (1) 関係市町と協働で利用促進に関する取り組みを実施(令和7年9月まで) (2) JR各駅での表示は継続実施 (3) 関係市町と協働で利便性向上に向けた協議(令和7年9月まで) (4) 令和6年10月～令和7年9月で適宜実施。 ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 当該路線は行橋市、苅田町を経由し北九州市小倉南区九州労災病院に至る系統で、2市1町を跨いでおり、通院のお客さまのほか、沿線からJR行橋駅、苅田駅ならびに朽網駅、下曽根駅への接続機能も持ち合わせている。沿線住民の通勤、通学、買い物等での利用もあり、日常生活に不可欠な交通手段となっており、非常に重要な公共交通の幹線軸である。よって、維持することが妥当である。
【参考】R6年度計画の取組状況 (1) 行橋駅・苅田駅・朽網駅・下曽根駅での利用促進に関する取り組みの強化。(各駅接続・北九州空港・九州労災病院へのアクセス路線としてのPR) 取組実施状況:B実施中 【取組の結果】 ・下曽根駅における電車接続を継続して実施した。 ・九州労災病院と砂津、恒見、吉田(小倉南区)各地区を結ぶ系統を新設し、さらなるアクセス先を設けた。(西鉄バス北九州) ・グランドバス75を新設し、各自治体窓口でチラシを配布することでシニア層への利用促進を行った。(西鉄バス北九州、北九州市、苅田町、行橋市) ・長期休暇期間に実施していたこども50円バスを土日祝日にも拡大適用し、子供たちへのバス利用促進を行った。(西鉄バス北九州) 【取組内容における課題】 ・下曽根駅を除く各駅での電車接続便が一部にとどまっている。 (2) バス車内ビジョンで行っているJR駅の列車時刻掲示の拡大を行い、乗り継ぎのお客さまの利便性向上を図る。 取組実施状況:B実施中 【取組の結果】 バス車内の運賃モニターに、JR行橋駅・苅田駅・朽網駅・下曽根駅の時刻表を掲示。当路線が乗入れるすべてのJR駅での時刻表を掲示しているため、各駅を利用するお客さまからの評判は良い。 【取組内容における課題】 ・緊急でダイヤが変更になる際は、時刻表の表示が出来ない場合がある。 (3) 南朽網バス停を北九州空港へのアクセスバス停とし、利便性向上・乗り継ぎ環境の整備を図る。 取組実施状況:B実施中 【取組の結果】 ・乗り継ぎ割引額を80円→90円に増額し、北九州空港行きエアポートバスへの乗り継ぎ利用を促進した。(西鉄バス北九州) ・バス路線図を作成し、当該路線とエアポートバスによる北九州空港へのアクセス方法を周知した。(西鉄バス北九州) 【取組内容における課題】 ・エアポートバスとの接続は一部便にとどまっており、今後の調整が必要である。 (4) 市民を対象とした出前講演等において、公共交通の維持の重要性等を説明し、公共交通の利用促進を図る。 取組実施状況:B実施中 【取組の結果】 ・市民を対象とした出前講演等において、公共交通の維持の重要性等を説明し、公共交通の利用促進を図った。 【取組内容における課題】 ・コロナ禍以降、生活様式の変化等による利用者減もあるが、継続的な呼びかけを行っていく必要がある。

【別紙】

2. 定量的な目標・効果 10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	46		
運行事業者名	西鉄バス二日市(株)		
系統名	星ヶ丘線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	西鉄二日市駅東口		太宰府高校入口

取組内容
① 生産性向上に資する取組 (1) 沿線の地域住民や学校、企業への通勤・通学および病院への通院利用に対して、利用の呼びかけ(チラシの配布等)を市と連携して行う事で、利用促進を図る。 (2) 定期券購入者の販促活動(沿線の学校等)を実施し、利用者の増を図る。 (3) こども50円バスを定期的に実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。 (4) 収支改善策として、令和6年1月20日に運賃改定や特殊定期券の見直しを実施。 ② 実施主体 (1) 西鉄バス二日市、太宰府市、筑紫野市 (2) 西鉄バス二日市、太宰府市、筑紫野市 (3) (4) 西鉄バス二日市 ③ 定量的な効果目標 【収支率】令和5年実績収支率73.1%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年実績349,874人以上を維持する。 ④ 実施に向けたスケジュール (1) 令和6年10月～令和7年9月で適宜実施。 当該路線のバス情報チラシの作成後、沿線バス停付近住民へのポスティング、公民館等でのチラシ配布実施 自治体広報紙等を活用した利用促進等の実施。 (2) 令和6年10月～令和7年9月で適宜実施 沿線の学校等での販促活動 (3) すべての土日祝と長期休暇に合わせて実施 (4) 令和6年1月20日に実施済 ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 太宰府市と筑紫野市を結ぶ本路線は、西鉄二日市駅へ接続しており、通勤、通学、通院、買い物利用等の日常生活に必要な不可欠な交通手段となっていることから、今後とも幹線系統として維持する必要がある。 【参考】R6年度計画の取組状況 ① 生産性向上に資する取組 (1) 沿線の地域住民や学校、企業への通勤・通学および病院への通院利用に対して、利用の呼びかけ(チラシの配布等)を市と連携して行う事で、利用促進を図る。 取組実施状況:C 【取組の結果】 チラシを作成し、各自治体の回覧等にて路線の周知を図る。 【取組内容における課題】 特になし (2) 定期券購入者の販促活動(沿線の学校等)を実施し、利用者の増を図る。 取組実施状況:C 【取組の結果】 チラシを作成し、各自治体の回覧等にて路線の周知を図る。 【取組内容における課題】 特になし (3) こども50円バスを定期的に実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。 取組実施状況:A 【取組の結果】 2023年の冬休みに17日間実施した際は、アンケートなどをもとに福岡都市圏で、3,617千円の効果試算をしている。 【取組内容における課題】 小学校へのさらなる周知

【別紙】

2. 定量的な目標・効果 10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項			
計画記載 系統番号	47		
運行事業者名	西鉄バス二日市(株)		
系統名	太宰府～宇美線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	太宰府市役所前	上宇美	宇美営業所

取組内容
① 生産性向上に資する取組 (1) 沿線の地域住民や学校、企業への通勤・通学および病院への通院利用に対して、利用の呼びかけ(チラシの配布等)を市・町と連携して行う事で、利用促進を図る。 (2) 定期券購入者の販促活動(沿線の学校等)を実施し、利用者の増を図る。 (3) こども50円バスを定期的に実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。 (4) 収支改善策として、令和6年1月20日に運賃改定や特殊定期券の見直しを実施。 (5) JR宇美駅への乗り入れを行い、駅接続を強化する
② 実施主体 (1) 西鉄バス二日市、太宰府市、宇美町 (2) 西鉄バス二日市、太宰府市、宇美町 (3) (4) (5) 西鉄バス二日市
③ 定量的な効果目標 【収支率】令和5年実績収支率41.5%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年実績107,583人以上を維持する。
④ 実施に向けたスケジュール (1) 令和6年10月～令和7年9月で適宜実施。 当該路線のバス情報チラシの作成後、沿線バス停付近住民へのポスティング実施 自治体広報紙等を活用した利用促進の実施。 (2) 令和6年10月～令和7年9月で適宜実施 沿線の学校等での販促活動 (3) すべての土日祝と長期休暇に合わせて実施 (4) 令和6年1月20日に実施済 (5) 令和6年10月1日に実施できないか検討中
⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 太宰府市と宇美町を結ぶ本路線は、両市町間の通勤、通学、買い物、通院など、住民の日常生活に必要不可欠な交通手段となっていることから、今後とも幹線系統として維持する必要がある。
【参考】R6年度計画の取組状況 ① 生産性向上に資する取組 (1) 沿線の地域住民や学校、企業への通勤・通学および病院への通院利用に対して、利用の呼びかけ(チラシの配布等)を市と連携して行う事で、利用促進を図る。 取組実施状況:C 【取組の結果】 チラシを作成し、各自治体の回覧等にて路線の周知を図る。 【取組内容における課題】 特になし (2) 定期券購入者の販促活動(沿線の学校等)を実施し、利用者の増を図る。 取組実施状況:C 【取組の結果】 チラシを作成し、各自治体の回覧等にて路線の周知を図る。 【取組内容における課題】 特になし (3) こども50円バスを定期的に実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。 取組実施状況:A 【取組の結果】 2023年の冬休みに17日間実施した際は、アンケートなどをもとに福岡都市圏で、3,617千円の効果試算をしている。 【取組内容における課題】 小学校へのさらなる周知

【別紙】

2. 定量的な目標・効果 10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項			
計画記載 系統番号	48		
運行事業者名	西鉄バス二日市(株)		
系統名	南ヶ丘線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	月の浦営業所	下大利駅・天拝坂	西鉄二日市

取組内容			
① 生産性向上に資する取組 (1) 沿線の地域住民や学校、企業への通勤・通学および病院への通院利用に対して、利用の呼びかけ(チラシの配布等)を市と連携して行う事で、利用促進を図る。 (2) 定期券購入者の販促活動(沿線の学校等)を実施し、利用者の増を図る。 (3) こども50円バスを定期的に実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。 (4) 収支改善策として、令和6年1月20日に運賃改定や特殊定期券の見直しを実施。 (5) 令和6年3月16日に南ヶ丘線のダイヤ改正を実施。 当該エリア全体の便数の適正化を行い、効率化を図った。			
② 実施主体 (1) 西鉄バス二日市、太宰府市、筑紫野市、大野城市 (2) 西鉄バス二日市、太宰府市、筑紫野市、大野城市 (3) (4) (5) 西鉄バス二日市			
③ 定量的な効果目標 【収支率】令和5年実績収支率81.4%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年実績309,360人以上を維持する。			
④ 実施に向けたスケジュール (1) 令和6年10月～令和7年9月で適宜実施。 当該路線のバス情報チラシの作成後、沿線バス停付近住民へのポスティング、公民館等でのチラシ配布実施 自治体広報紙等を活用した利用促進の実施。 (2) 令和6年10月～令和7年9月で適宜実施 沿線の学校等での販促活動 (3) すべての土日祝と長期休暇に合わせて実施 (4) 令和6年1月20日に実施済 (4) 令和6年3月16日に実施済			
⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 太宰府市と筑紫野市、大野城市を結ぶ本路線は、西鉄下大利駅、西鉄二日市駅へ接続しており、通勤、通学、通院、買い物利用等の日常生活に必要な交通手段となっていることから、今後とも幹線系統として維持する必要がある。			
【参考】R6年度計画の取組状況 ① 生産性向上に資する取組 (1) 沿線の地域住民や学校、企業への通勤・通学および病院への通院利用に対して、利用の呼びかけ(チラシの配布等)を市と連携して行う事で、利用促進を図る。 取組実施状況:C 【取組の結果】 チラシを作成し、各自治体の回覧等にて路線の周知を図る。 【取組内容における課題】 特になし (2) 定期券購入者の販促活動(沿線の学校等)を実施し、利用者の増を図る。 取組実施状況:C 【取組の結果】 チラシを作成し、各自治体の回覧等にて路線の周知を図る。 【取組内容における課題】 特になし (3) こども50円バスを定期的に実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。 取組実施状況:A 【取組の結果】 2023年の冬休みに17日間実施した際は、アンケートなどをもとに福岡都市圏で、3,617千円の効果試算をしている。 【取組内容における課題】 小学校へのさらなる周知			

【別紙】

2. 定量的な目標・効果 10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項			
計画記載 系統番号	49		
運行事業者名	西鉄バス二日市(株)		
系統名	つつじヶ丘線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	南山手団地	下大利駅	南山手団地

取組内容
① 生産性向上に資する取組 (1) 沿線の地域住民や学校、企業への通勤・通学および病院への通院利用に対して、利用の呼びかけ(チラシの配布等)を市と連携して行う事で、利用促進を図る。 (2) 定期券購入者の販促活動(沿線の学校等)を実施し、利用者の増を図る。 (3) こども50円バスを定期的の実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。 (4) 収支改善策として、令和6年1月20日に運賃改定や特殊定期券の見直しを実施。 (5) 令和6年3月16日につつじヶ丘線のダイヤ改正を実施。 当該エリア全体の便数の適正化を行い、効率化を図った。
② 実施主体 (1) 西鉄バス二日市、太宰府市、大野城市 (2) 西鉄バス二日市、太宰府市、大野城市 (3) (4) (5) 西鉄バス二日市
③ 定量的な効果目標 【収支率】令和5年実績収支率79.9%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年実績353,948人以上を維持する。
④ 実施に向けたスケジュール (1) 令和6年10月～令和7年9月で適宜実施。 当該路線のバス情報チラシの作成後、沿線バス停付近住民へのポスティング、公民館等でのチラシ配布実施 自治体広報紙等を活用した利用促進の実施。 (2) 令和6年10月～令和7年9月で適宜実施 沿線の学校等での販促活動 (3) すべての土日祝と長期休暇に合わせて実施 (4) 令和6年1月20日に実施済 (5) 令和6年3月16日に実施済
⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 太宰府市と大野城市を結ぶ本路線は、西鉄下大利駅へ接続しており、通勤、通学、通院、買い物利用等の日常生活に必要な不可欠な交通手段となっていることから、今後とも幹線系統として維持する必要がある。
【参考】R6年度計画の取組状況 ① 生産性向上に資する取組 (1) 沿線の地域住民や学校、企業への通勤・通学および病院への通院利用に対して、利用の呼びかけ(チラシの配布等)を市と連携して行う事で、利用促進を図る。 取組実施状況:C 【取組の結果】 チラシを作成し、各自治体の回覧等にて路線の周知を図る。 【取組内容における課題】 特になし (2) 定期券購入者の販促活動(沿線の学校等)を実施し、利用者の増を図る。 取組実施状況:C 【取組の結果】 チラシを作成し、各自治体の回覧等にて路線の周知を図る。 【取組内容における課題】 特になし (3) こども50円バスを定期的の実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。 取組実施状況:A 【取組の結果】 2023年の冬休みに17日間実施した際は、アンケートなどをもとに福岡都市圏で、3,617千円の効果試算をしている。 【取組内容における課題】 小学校へのさらなる周知

○取組実施状況
(凡例)
A: 実施済
B: 実施中
C: 実施予定
D: 検討中
E: 実施困難

【別紙】

2. 定量的な目標・効果 10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	50		
運行事業者名	西鉄バス二日市(株)		
系統名	二日市線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	太宰府	吉木入口	西鉄二日市

取組内容
① 生産性向上に資する取組 (1) 沿線の地域住民や学校、企業への通勤・通学および病院への通院利用に対して、利用の呼びかけ(チラシの配布等)を市と連携して行う事で、利用促進を図る。 (2) 定期券購入者の販促活動(沿線の学校等)を実施し、利用者の増を図る。 (3) こども50円バスを定期的に実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。 (4) 収支改善策として、令和6年1月20日に運賃改定や特殊定期券の見直しを実施。 (5) 二日市線のダイヤ改正を行い、当該エリア全体の便数の適正化を行うことで、効率化を図りたい。 ② 実施主体 (1) 西鉄バス二日市、太宰府市、筑紫野市 (2) 西鉄バス二日市、太宰府市、筑紫野市 (3) (4) (5) 西鉄バス二日市 ③ 定量的な効果目標 【収支率】令和5年実績収支率69.2%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年実績131,999人以上を維持する。 ④ 実施に向けたスケジュール (1) 令和6年10月～令和7年9月で適宜実施。 当該路線のバス情報チラシの作成後、沿線バス停付近住民へのポスティング、公民館等でのチラシ配布実施 自治体広報紙等を活用した利用促進の実施。 (2) 令和6年10月～令和7年9月で適宜実施 沿線の学校等での販促活動 (3) すべての土日祝と長期休暇に合わせて実施 (4) 令和6年1月20日に実施済 (5) 令和6年10月1日に実施できないか検討中 ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 太宰府市と筑紫野市を結ぶ本路線は、西鉄二日市駅・西鉄太宰府駅へ接続しており、通勤、通学、通院、買い物利用等の日常生活に必要な交通手段となっていることから、今後とも幹線系統として維持する必要がある。
【参考】R6年度計画の取組状況 ① 生産性向上に資する取組 (1) 沿線の地域住民や学校、企業への通勤・通学および病院への通院利用に対して、利用の呼びかけ(チラシの配布等)を市と連携して行う事で、利用促進を図る。 取組実施状況:C 【取組の結果】 チラシを作成し、各自治体の回覧等にて路線の周知を図る。 【取組内容における課題】 特になし (2) 定期券購入者の販促活動(沿線の学校等)を実施し、利用者の増を図る。 取組実施状況:C 【取組の結果】 チラシを作成し、各自治体の回覧等にて路線の周知を図る。 【取組内容における課題】 特になし (3) こども50円バスを定期的に実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。 取組実施状況:A 【取組の結果】 2023年の冬休みに17日間実施した際は、アンケートなどをもとに福岡都市圏で、3,617千円の効果試算をしている。 【取組内容における課題】 小学校へのさらなる周知

【別紙】

2. 定量的な目標・効果 10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項			
計画記載 系統番号	51		
運行事業者名	西鉄バス二日市(株)		
系統名	二日市線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	原営業所	吉木入口・吉木	西鉄二日市

取組内容
① 生産性向上に資する取組 (1) 沿線の地域住民や学校、企業への通勤・通学および病院への通院利用に対して、利用の呼びかけ(チラシの配布等)を市と連携して行う事で、利用促進を図る。 (2) 定期券購入者の販促活動(沿線の学校等)を実施し、利用者の増を図る。 (3) こども50円バスを定期的の実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。 (4) 収支改善策として、令和6年1月20日に運賃改定や特殊定期券の見直しを実施。 (5) 改善基準対策として、二日市線のダイヤ改正を行い、当該エリア全体の便数の適正化を行うことで、効率化を図りたい。 ② 実施主体 (1) 西鉄バス二日市、太宰府市、筑紫野市 (2) 西鉄バス二日市、太宰府市、筑紫野市 (3) (4) (5) 西鉄バス二日市 ③ 定量的な効果目標 【収支率】令和5年実績収支率59.1%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】令和5年実績121,454人以上を維持する。 ④ 実施に向けたスケジュール (1) 令和6年10月～令和7年9月で適宜実施。 当該路線のバス情報チラシの作成後、沿線バス停付近住民へのポスティング、公民館等でのチラシ配布実施 自治体広報紙等を活用した利用促進の実施。 (2) 令和6年10月～令和7年9月で適宜実施 沿線の学校等での販促活動 (3) すべての土日祝と長期休暇に合わせて実施 (4) 令和6年1月20日に実施済 (5) 令和6年10月1日に実施できないか検討中 ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 太宰府市と筑紫野市を結ぶ本路線は、西鉄二日市駅へ接続しており、通勤、通学、通院、買い物利用等の日常生活に必要不可欠な交通手段となっていることから、今後とも幹線系統として維持する必要がある。
【参考】R6年度計画の取組状況
① 生産性向上に資する取組
(1) 沿線の地域住民や学校、企業への通勤・通学および病院への通院利用に対して、利用の呼びかけ(チラシの配布等)を市と連携して行う事で、利用促進を図る。
取組実施状況:C
【取組の結果】 チラシを作成し、各自治体の回覧等にて路線の周知を図る。
【取組内容における課題】 特になし
(2) 定期券購入者の販促活動(沿線の学校等)を実施し、利用者の増を図る。
取組実施状況:C
【取組の結果】 チラシを作成し、各自治体の回覧等にて路線の周知を図る。
【取組内容における課題】 特になし
(3) こども50円バスを定期的の実施し、バスに乗るきっかけ作りや将来のバス利用につなげる。
取組実施状況:A
【取組の結果】 2023年の冬休みに17日間実施した際は、アンケートなどをもとに福岡都市圏で、3,617千円の効果試算をしている。
【取組内容における課題】 小学校へのさらなる周知

【別紙】

2. 定量的な目標・効果

10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	52		
運行事業者名	JR九州バス(株)		
系統名	直方線		
運行区間	(起点) 山の神	(経由地) 久山	(終点) 博多

取組内容

① 生産性向上に資する取組

(1) ホームページから時刻、運賃、遅延状況等を検索できるシステムを導入し、ホームページの案内をわかりやすい内容に充実させ、サービスの向上を図る。

(2) 子供たちにバスの乗車体験を行い、バスに慣れ親しんでもらい、ご利用のきっかけを増やす。

(3) イベントに参加し、沿線地域の住民へ呼びかけを行い、利用者増を目指す。

② 実施主体

(1) JR九州バス

(2) (3) JR九州バス、福岡市、粕屋町、久山町

③ 定量的な効果目標

【収支率】R5実績収支率50.5%から収支率改善1.0%以上を目標とする。

【輸送人員】R5実績77,596人以上を維持する。

④ 実施に向けたスケジュール

(1) ホームページ構築に向けた打合せ(令和6年5月～)、実施(令和7年3月)

(2) 幼稚園又は小学校に提案(令和6年10月～)、実施(令和7年5月～)

(3) イベント時期の調整(令和6年10月～)、実施(令和7年10月～)

⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由

当該路線については、福岡市、粕屋町、久山町の1市2町の地域間を結ぶ路線として運行しており、鉄道が無い地域にとって唯一の博多駅へ直接アクセスできる公共交通手段として沿線住民にとって重要な路線である。また、当該路線の一部は沿線フィーダー系統が接続しており、周辺には鉄道駅等も無いことから、幹線として維持することが必須である。

【参考】R6年度計画の取組状況

(1) バス運賃の見直し(運賃改定)を行う。

取組実施状況:A

【取組の結果】

【取組内容における課題】逸走率等、今後のご利用状況を検証する必要がある

(2) 幼児又は小学生などにバスの乗り方教室を行い、ご利用になる動機づけとして利用促進を行う。

取組実施状況:D

【取組の結果】

【取組内容における課題】自治体と協議調整が必要

(3) 休日やイベント開催日に「こども運賃無料の日」を実施し、バスに慣れ親しんでもらい、親子でご利用していただくようチラシを制作し、イベントや沿線施設への配布等により、沿線地域の住民へ呼びかけを行い、利用者増を目指す。

取組実施状況:D

【取組の結果】

【取組内容における課題】イベント等自治体と協議調整が必要

【別紙】

2. 定量的な目標・効果
10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	53		
運行事業者名	JR九州バス(株)		
系統名	直方線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	直方	鞍手高校前	博多

取組内容
① 生産性向上に資する取組 (1) ホームページから時刻、運賃、遅延状況等を検索できるシステムを導入し、ホームページの案内をわかりやすい内容に充実させ、サービスの向上を図る。 (2) 子供たちにバスの乗車体験を行い、バスに慣れ親しんでもらい、ご利用のきっかけを増やす。 (3) イベントに参加し、沿線地域の住民へ呼びかけを行い、利用者増を目指す。 ② 実施主体 (1) JR九州バス (2)、(3) JR九州バス、福岡市、粕屋町、久山町、宮若市、直方市 ③ 定量的な効果目標 【収支率】R5実績収支率47.8%から収支率改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】R5実績199,345人以上を維持する。 ④ 実施に向けたスケジュール (1) ホームページ構築に向けた打合せ(令和6年5月～)、実施(令和7年3月) (2) 幼稚園又は小学校に提案(令和6年10月～)、実施(令和7年5月～) (3) イベント時期の調整(令和6年10月～)、実施(令和7年10月～) ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 当該路線については、福岡市、直方市、宮若市、粕屋町、久山町の3市2町の地域間を結ぶ路線として運行しており、鉄道が無い地域にとって唯一の博多駅又は直方駅へ直接アクセスできる公共交通手段として沿線住民にとって重要な路線である。また、当該路線の一部は沿線フィーダー系統が接続しており、周辺には鉄道駅等も無いことから、幹線として維持することが必須である。
【参考】R6年度計画の取組状況 (1) バス運賃の見直し(運賃改定)を行う。 取組実施状況:A 【取組の結果】 【取組内容における課題】逸走率等、今後のご利用状況を検証する必要がある (2) 幼児又は小学生などにバスの乗り方教室を行い、ご利用になる動機づけとして利用促進を行う。 取組実施状況:D 【取組の結果】 【取組内容における課題】自治体と協議調整が必要 (3) 休日やイベント開催日に「こども運賃無料の日」を実施し、バスに慣れ親しんでもらい、親子でご利用していただくようチラシを制作し、イベントや沿線施設への配布等により、沿線地域の住民へ呼びかけを行い、利用者増を目指す。 取組実施状況:D 【取組の結果】 【取組内容における課題】イベント等自治体と協議調整が必要

【別紙】

2. 定量的な目標・効果
10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	54		
運行事業者名	JR九州バス(株)		
系統名	直方線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	直方	鞍手高校前	福丸

取組内容
① 生産性向上に資する取組 (1)ホームページから時刻、運賃、遅延状況等を検索できるシステムを導入し、ホームページの案内をわかりやすい内容に充実させ、サービスの向上を図る。 (2)子供たちにバスの乗車体験を行い、バスに慣れ親しんでもらい、ご利用のきっかけを増やす。 (3)イベントに参加し、沿線地域の住民へ呼びかけを行い、利用者増を目指す。 ② 実施主体 (1)JR九州バス (2)、(3)JR九州バス、宮若市、直方市 ③ 定量的な効果目標 【収支率】R5実績収支率59.0%から収支率改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】R5実績90,276人以上を維持する。 ④ 実施に向けたスケジュール (1)ホームページ構築に向けた打合せ(令和6年5月～)、実施(令和7年3月) (2)幼稚園又は小学校に提案(令和6年10月～)、実施(令和7年5月～) (3)イベント時期の調整(令和6年10月～)、実施(令和7年10月～) ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 当該路線については、直方市、宮若市の2市の地域間を結ぶ路線として運行しており、鉄道が無い地域にとって唯一の直方駅へ直接アクセスできる公共交通手段として沿線住民にとって重要な路線であり幹線として維持することが必須である。
【参考】R6年度計画の取組状況 (1)バス運賃の見直し(運賃改定)を行う。 取組実施状況:A 【取組の結果】 【取組内容における課題】逸走率等、今後のご利用状況を検証する必要がある (2)幼児又は小学生などにバスの乗り方教室を行い、ご利用になる動機づけとして利用促進を行う。 取組実施状況:D 【取組の結果】 【取組内容における課題】自治体と協議調整が必要 (3)休日やイベント開催日に「こども運賃無料の日」を実施し、バスに慣れ親しんでもらい、親子でご利用していただくようチラシを制作し、イベントや沿線施設への配布等により、沿線地域の住民へ呼びかけを行い、利用者増を目指す。 取組実施状況:D 【取組の結果】 【取組内容における課題】イベント等自治体と協議調整が必要

【別紙】

2. 定量的な目標・効果
10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	55		
運行事業者名	JR九州バス(株)		
系統名	日田彦山線BRT		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	添田駅		日田駅

取組内容
① 生産性向上に資する取組 (1)開業1周年記念にぎわいづくり、キャンペーン、PRの実施による利用促進 (2)沿線でのウォーキングイベントやキャンペーンの実施、観光需要を取り込み (3)MaaS等を活用した特別企画きっぷの造成による、観光客を中心とした利用促進の取り組み ② 実施主体 (1)JR九州、JR九州バス、福岡県、添田町、東峰村 (2)JR九州、JR九州バス、福岡県、添田町、東峰村 (3)JR九州、JR九州バス、福岡県、添田町、東峰村 ③ 定量的な効果目標 【収支率】想定収支率16.7%から収支率改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】100,000人以上を目標とする ④ 実施に向けたスケジュール (1)BRT開業1周年(2024年8月28日)に合わせて実施 (2)ウォーキングイベントは令和6年秋に実施予定 (3)BRTひこぼしライン1DAYフリーチケットを発売中 ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 当該路線は、2017年の九州北部豪雨で被災したJR九州の日田彦山線(添田～夜明)をBRTにより復旧するために運行するものである。当該路線は2県3市町村を結ぶ地域間幹線であり、かつBRTでの復旧については県市町村及びJR九州の6者で合意した事項であることから、幹線として維持することが必要とされた路線である。 【参考】R6年度計画の取組状況 (1)日田彦山線BRT紹介パンフレット等を作成し、駅、沿線の事業者(飲食店等)、自治体の広報誌等を通して配布し、BRTの知名度向上と利用促進に取り組む 取組実施状況:A 【取組の結果】県内のみならず、全国から多くのお客さまのご利用に寄与した。 【取組内容における課題】一過性ではない継続的な発信が必要。住民による日常利用のさらなる促進も行う。 (2)沿線でのイベントやキャンペーンを実施し、観光需要を取り込む 取組実施状況:A 【取組の結果】福岡・大分DCキャンペーンによるPRやイベントを実施中 【取組内容における課題】一過性ではない継続的な発信が必要。観光利用の落ち込む冬季の利用促進策も行う。 (3)MaaS等を活用した特別企画きっぷの造成により、観光客を中心に利用促進に取り組む 取組実施状況:A 【取組の結果】ネット限定チケットとしては堅調なご利用状況。沿線の特典店舗も2024年3月から拡大。 【取組内容における課題】さらなる商品PRや利用促進を行う。

【別紙】

2. 定量的な目標・効果
9. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	56		
運行事業者名	株式会社 甘木観光バス		
系統名	田主丸線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	甘鉄甘木駅	朝倉医師会病院	田主丸中央病院

取組内容
① 生産性向上に資する取組 (1) 路線バス利用促進の為、大型商業施設にて路線バス促進キャンペーン実施、啓発チラシと促進グッズの配布を行う。 (2) 朝倉市と連携して、各々のホームページに時刻表や路線図、お知らせ等の掲載をし、利便性を図る。 (3) 沿線住民に定期券(通勤・通学・ニューライフ60)や回数券の説明、案内を行う。 (4) 甘木観光バスのホームページのQRコードを来社された際に配布し、利用促進を図る。 ② 実施主体 (1) 甘木観光バス, 朝倉市 (2) 甘木観光バス, 朝倉市, 久留米市 (3) 甘木観光バス (4) 甘木観光バス ③ 定量的な効果目標 【収支率】 令和5年度実績 24.43%から収支改善1.0%以上を目標とする。 【輸送人員】 令和5年度実績 59,690人以上を目標とする。 ④ 実施に向けたスケジュール (1) 利用促進イベントと併せて実施予定。令和6年10月頃。 (2) 随時実施 (3) 随時実施 (4) 随時実施 ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 朝倉市と久留米市を結ぶ田主丸線の沿線には、高等学校や医療機関があり、朝夕には通学、日中には通院や買い物の交通手段として利用されている。 周辺には鉄道等が無いので、今後も地域住民の足として、幹線系統として維持していく必要がある。 【参考】R6年度計画の取組状況 (1) 路線バス利用促進の為、大型商業施設にて路線バス促進キャンペーン実施、啓発チラシと促進グッズの配布を行う。 取組実施状況:C 【取組の結果】 令和6年10月以降に実施予定 【取組内容における課題】 新型コロナウイルス感染症の為に中止になっていたが、令和6年度は実施予定。 (2) 朝倉市と連携して、各々のホームページに時刻表や路線図、お知らせ等の掲載をし、利便性を図る。 取組実施状況:B 【取組の結果】 利便性の向上に繋がった。悪天候時等、利用者に早くお知らせが出来る。 【取組内容における課題】 高齢者は利用するツールが無かったり、使い方が分からない人もいる。他に何か方法がないか？ (3) 沿線住民に定期券(通勤・通学・ニューライフ60)や回数券の説明、案内を行う。 取組実施状況:B 【取組の結果】 各定期券と回数券の説明をし、解約件数を減らす。 【取組内容における課題】 新型コロナウイルス感染症の影響で、在宅学習や在宅ワークが増えて、離れていった利用者に再度働きかける。 (4) 甘木観光バスのホームページのQRコードを来社された際に配布し、利用促進を図る。 取組実施状況:B 【取組の結果】 ポケットティッシュにQRコードを入れて、来社された際に、配布する。 【取組内容における課題】 次回の時刻表にはQRコードを載せて、もっと広く知っていただく。

【別紙】

2. 定量的な目標・効果
9. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項

計画記載 系統番号	57		
運行事業者名	新宮タクシー株式会社		
系統名	山らいず線		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	佐屋	JR福工大前駅	西鉄新宮駅

取組内容

- ① 生産性向上に資する取組
- (1) 町教育委員会が実施する東部地区居住の中学生通学に係るバス運賃の補助事業との連携や地域住民が利用しやすい路線の見直しを実施し、利用者の増加を図る。
- (2) 立花山登山や九州オルレ新宮コースを目的とした観光客を効果的に取り込むため、各種HP・パンフ等で当該路線をPRするとともに、団体利用時の対応を充実させ、利用者の増加を図る。
- (3) 新宮町コミュニティバスバスロケーションシステムの周知広報を行い、利便性の向上を図る。
- ② 実施主体
- (1) 新宮タクシー(株)、新宮町
- (2) 新宮タクシー(株)、新宮町
- (3) 新宮タクシー(株)、新宮町
- ③ 定量的な効果目標
- 【収支率】令和5年度実績 20.47%から収支改善1.0%以上
- 【輸送人員】令和5年度実績 91,838人以上を維持
- ④ 実施に向けたスケジュール
- (1) バス運賃補助事業との連携(令和7年9月まで随時)、路線の見直し(令和7年3月まで)
- (2) 路線のPR及び団体利用の対応(令和7年9月まで随時)
- (3) バスロケーションシステムの周知広報(令和7年9月まで随時)
- ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由
- 新宮町と福岡市を結ぶ本路線は、JR福工大前駅(福岡市)、JR新宮中央駅、西鉄新宮駅に接続する公共交通手段として沿線住民にとって通勤・通学等の生活路線として利用されている重要な路線であり、今後とも幹線系統として維持する必要がある。

【参考】R6年度計画の取組状況

- (1)
- 取組実施状況：
- 【取組の結果】
- 【取組内容における課題】
- (2)
- 取組実施状況：
- 【取組の結果】
- 【取組内容における課題】
- (3)
- 取組実施状況：
- 【取組の結果】
- 【取組内容における課題】

【別紙】

2. 定量的な目標・効果			
9. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項			

計画記載 系統番号	58		
運行事業者名	新宮タクシー株式会社		
系統名	相らんど線 第1ルート		
運行区間	(起点) 西鉄新宮駅	(経由地) JR福工大前駅	(終点) 西鉄新宮駅

取組内容
① 生産性向上に資する取組 (1) 町教育委員会が実施する相島漁村留学(通学型)の通学に係るバス運賃の補助事業との連携や離島相島を繋ぐ町営渡船との接続を確保し、利用者の増加を図る。 (2) 相島への国内外からの観光客を効果的に取り込むため、各種HP・パンフ等で当該路線をPRするとともに、バス停や車内案内の多言語案内を充実させ、利用者の増加を図る。 (3) 新宮町コミュニティバスバスロケーションシステムの周知広報を行い、利便性の向上を図る。
② 実施主体 (1) 新宮タクシー(株)、新宮町 (2) 新宮タクシー(株)、新宮町 (3) 新宮タクシー(株)、新宮町
③ 定量的な効果目標 【収支率】令和5年度実績 56.53%から収支改善1.0%以上 【輸送人員】令和5年度実績 75,348人以上を維持
④ 実施に向けたスケジュール (1) バス運賃補助事業との連携及び町営渡船との接続(令和7年9月まで随時) (2) 路線のPR及びバス停等の多言語案内(令和7年9月まで随時) (3) バスロケーションシステムの周知広報(令和7年9月まで随時)
⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 新宮町と福岡市を結ぶ本路線は、JR福工大前駅(福岡市)、JR新宮中央駅、西鉄新宮駅に接続する公共交通手段として沿線住民にとって通勤・通学等の生活路線として利用されている重要な路線である。また、路線の一部は離島相島の町営渡船と接続しており、相島住民にとっても日常生活に必要な不可欠な交通手段となっており、今後とも幹線系統として維持する必要がある。
【参考】R6年度計画の取組状況 (1) 取組実施状況： 【取組の結果】 【取組内容における課題】 (2) 取組実施状況： 【取組の結果】 【取組内容における課題】 (3) 取組実施状況： 【取組の結果】 【取組内容における課題】

【別紙】

2. 定量的な目標・効果			
9. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項			

計画記載 系統番号	59		
運行事業者名	新宮タクシー株式会社		
系統名	相らんど線 第2ルート		
運行区間	(起点)	(経由地)	(終点)
	西鉄新宮駅	JR福工大前駅	西鉄新宮駅

取組内容
① 生産性向上に資する取組 (1) 町教育委員会が実施する相島漁村留学(通学型)の通学に係るバス運賃の補助事業との連携や離島相島を繋ぐ町営渡船との接続を確保し、利用者の増加を図る。 (2) 相島への国内外からの観光客を効果的に取り込むため、各種HP・パンフ等で当該路線をPRするとともに、バス停や車内案内の多言語案内を充実させ、利用者の増加を図る。 (3) 新宮町コミュニティバスバスロケーションシステムの周知広報を行い、利便性の向上を図る。 ② 実施主体 (1) 新宮タクシー(株)、新宮町 (2) 新宮タクシー(株)、新宮町 (3) 新宮タクシー(株)、新宮町 ③ 定量的な効果目標 【収支率】令和5年度実績 43.44%から収支改善1.0%以上 【輸送人員】令和5年度実績 60,855人以上を維持 ④ 実施に向けたスケジュール (1) バス運賃補助事業との連携及び町営渡船との接続(令和7年9月まで随時) (2) 路線のPR及びバス停等の多言語案内(令和7年9月まで随時) (3) バスロケーションシステムの周知広報(令和7年9月まで随時) ⑤ 本系統を幹線系統として維持する理由 新宮町と福岡市を結ぶ本路線は、JR福工大前駅(福岡市)、JR新宮中央駅、西鉄新宮駅に接続する公共交通手段として沿線住民にとって通勤・通学等の生活路線として利用されている重要な路線である。また、路線の一部は離島相島の町営渡船と接続しており、相島住民にとっても日常生活に必要な不可欠な交通手段となっており、今後とも幹線系統として維持する必要がある。
【参考】R6年度計画の取組状況
(1)
取組実施状況：
【取組の結果】
【取組内容における課題】
(2)
取組実施状況：
【取組の結果】
【取組内容における課題】
(3)
取組実施状況：
【取組の結果】
【取組内容における課題】